

授業科目名	スポーツ学研究法				
担当教員名	石井、林綾子・豊田・佃・高橋・渋谷・黒澤寛己・小松・禰屋・山田				
学年・コース等	1	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	日本スポーツ協会上級コーチ（8回）				

授業概要

スポーツ学研究に関する基礎的な知識・経験をより発展させ、スポーツ文化の創造とスポーツニーズに応えうる高度職業人を養成することを目指す。

達成目標

- 1) 修士論文を作成するための基本的知識を習得し、具体的な研究計画を立てる事が出来る。
- 2) 研究目的の設定について熟知する。
- 3) その研究目的を達成するための方法について熟知する。
- 4) その方法から得られた結果をどのようにまとめるかについて熟知する。

養うべき力と到達目標

具体的内容：

1. DP1. スポーツに対する関心・意欲

この項目は使用しません。

目標：

この項目は使用しません。

学外連携学修

無し

授業方法

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

本授業は各授業において作成する発表資料（レジュメ）と、そのプレゼンテーション（発表）の内容により評価される。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

発表資料

： 発表資料を次の観点から評価する。1) 選定した論文の内容を的確に発表資料に反映しているか、2) 小項目を立て、分かりやすい資料作成ができていないか。

50 %

プレゼンテーション

： 毎回の授業で、発表資料を活用したプレゼンテーションを行い、これを評価する。1) 発表資料をわかりやすく発表ができていないか、2) 質疑応答に適切に対応ができていないか。

50 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

必要に応じて、担当教員が指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	担当教員に確認のこと。
場所：	担当者の研究室
備考・注意事項：	予めアポイントをとってから、訪問すること。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 スポーツ学研究法 ことはじめ (石井) 研究課題を遂行し、修士論文を作成していくためには、充分な方法論的理解を獲得しておく必要がある。本授業においては、オリエンテーションを含みながら、これからどういった研究方法に取り組んでいくのかについて学修する。	修士論文構想を想定した上で、参考図書を利用して、研究方法について予めノートにまとめておく。	4時間
第2回 スポーツ学研究法Ⅰ (豊田) スポーツ心理学の立場から研究法を学ぶ。特に質的研究について論文を紹介し、特徴を学修する。	スポーツ心理学領域における質的心理学研究法について、関連図書を利用して、その特徴についてノートにまとめておく。	4時間
第3回 スポーツ学研究法Ⅱ (林綾子) 修士論文作成に向けた研究を進めていくにあたり、研究者として守るべき規範、倫理について学修する。	入学前として課している研究者倫理に関するテキストを熟読しておく	4時間
第4回 スポーツ学研究法Ⅲ (林) 野外教育についての研究論文について解説する。特に、理論研究に着目し、学修する。	野外教育に関する理論研究を予め熟読し、その特徴をノートにまとめておく。	4時間
第5回 スポーツ学研究法Ⅳ (山田) スポーツにおけるデータサイエンスの適用例を概観しデータ収集、データクレンジング、データ解析、結果の出力を学習する。スポーツ実践におけるデータサイエンスの応用についてディスカッションを行う。	スポーツにおけるデータサイエンス適用例を探索する	4時間
第6回 スポーツ学研究法Ⅴ (黒澤寛) スポーツ学を研究するために必要な「目標設定」の方法について理解を深める。学校教育の現場で活用されている「目標達成」の方法について理解を深める。 受講生の目指すべき修士論文作成について、必要な目標、計画、具体的な取り組みについて必要な知識と技能を身に付ける。	目標設定に関する課題に取り組み	4時間
第8回 スポーツ学研究法Ⅵ (渋谷) 陸上競技・コーチングの立場から研究法を学ぶ。コーチング研究の手法について、フィールド種目(跳躍・投てき)を対象としたいくつかの論文から学ぶ。	陸上競技の中でも「跳ぶ」や「投げる」に寄与する研究論文を予め熟読し、その特徴をノートにまとめておく。	4時間
第9回 スポーツ学研究法Ⅶ (齋屋) 運動生理学に関する研究について自身の計画している研究に沿った関連分野の論文を参照して、自身の研究方法の概要を構築する	自身の計画している研究に関連する運動生理学分野の研究論文をあらかじめ3編程度熟読しておく	4時間
第10回 スポーツ学研究法Ⅷ (高橋) スポーツバイオメカニクスに関連する研究論文を紹介し、研究方法についての理解を深める。 「動き」に関連する研究論文を紹介し、研究方法についての理解を深める。	スポーツバイオメカニクス研究を予め熟読し、その特徴をノートにまとめておく。	4時間
第12回 スポーツ学研究法Ⅸ (佃) コンディショニングやアスレティックトレーニングについての研究論文を紹介し、研究方法についての理解を深める。 運動生理学に関する研究について自身の計画している研究に沿った関連分野の論文を参照して、自身の研究方法の概要を構築する トレーニング科学についての研究論文を紹介し、研究方法についての理解を深める。	アスレチックリハビリテーションに関連する研究論文を熟読し、その特徴についてノートにまとめておく。	4時間
第14回 スポーツ学研究法Ⅹ (小松) 医学研究において根幹となすヘルシンキ宣言に代表される、人間を対象とする倫理的原則について、研究者として理解を深める。	自分が行う予定の研究の中で、どのように対象者への倫理的配慮を考えているかを具体的にまとめる。	4時間

授業科目名	特別研究 I				
担当教員名	大学院担当教員				
学年・コース等	1	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

自分の研究テーマについて研究し、修士論文にまとめる第1段階である。そのために指導教員と適切な研究計画を立て、指導を受けながら計画的に先行研究の調査、実験、考察などを実施し、研究課題を決定する。
【到達目標】
 専門領域における現状や課題を理解し、個人的興味や現場での問題をもとに研究課題を設定し、研究デザインを作成し、調査を遂行し、結果の分析解釈、研究の発表という一連の学びを経験する。

養うべき力と到達目標**具体的内容：**

1. DP1. スポーツに対する関心・意欲

この項目は使用しません。

目標：

この項目は使用しません。

学外連携学修

無し

授業方法

- ・問答法・コメントを求める
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価**成績評価の方法・評価の割合****評価の基準**

毎時の演習課題に関するプレゼンテーション

:

70 %

研究計画書の評価

:

研究課題の新規性、方法の妥当性、論理性

30 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

授業計画**学修課題****授業外学修課題にかかる目安の時間**

第1回	修士論文についての理解 -スポーツ分野 そもそも修士論文とはどのような論文であり、如何なる水準が求められるのか、十分に理解する。スポーツ分野全般に関する理解を目指す。	関連文献の検索、整理	4時間
第2回	修士論文についての理解 -スポーツ分野の発表 スポーツ分野全般から興味のある修士論文を読み、まとめ、発表する。修士論文の現状・レベルを理解する。	関連文献を読む	4時間

第3回	修士論文についての理解 -専攻分野 専攻分野における修士論文を検索し、読み込み、理解する。	関連文献より専攻分野における研究の現状と課題をまとめる	4時間
第4回	修士論文についての理解 -専攻分野の発表 専攻分野の修士論文の概観をまとめ、発表し、現状・レベル・課題を理解する。	個人の興味のあるテーマに関する文献検索、読みこみ	4時間
第5回	関連文献の検索 現状や課題を踏まえ、調べるべきテーマや領域を整理し、検索を行う。	個人のテーマについての研究の現状と課題をまとめる	4時間
第6回	関連文献の理解-専攻分野 専攻分野における自身の研究テーマに関わる文献を集め、読み、理解を深める。	個人のテーマに関する、理論や研究について調べる	4時間
第7回	関連文献の理解-他領域 他領域における自身の研究テーマに関わる文献を集め、理解を深める。	他分野の理論や研究と個人のテーマとの接点を整理する	4時間
第8回	先行研究のまとめ 関連文献から、自身の研究テーマに関わる先行研究をまとめる。	理論・研究結果を整理する。	4時間
第9回	先行研究のまとめの発表 先行研究のまとめを発表し、現状や課題を把握し、今後のテーマ設定についてディスカッションする。	現時点でのテーマに関する先行研究をまとめ、自身の課題を明らかにする。	4時間
第10回	研究の方向性の決定 ある程度の方向性を決定し、今後計画・進行について、方向性を定める。	研究計画を立てる。	4時間
第11回	基本理論の理解 自身の研究の中心となる理論を整理し、理解する。	多様な理論を整理し、理解する。	4時間
第12回	基本理論のまとめ 自身の研究の中心となる理論をまとめ、自身の研究を理論を用いてモデル化する。	研究課題・仮説の設定をめざす。	4時間
第13回	研究課題・仮説の設定 研究課題・仮説を設定し、その問題意識や意義についてディスカッションする。	ディスカッションの内容に応じて必要な修正を行う。	4時間
第14回	研究テーマの設定 および 研究計画立案 ・各自の課題に基づいて研究テーマを設定する。 ・研究テーマに基づく計画についてディスカッションを行う。	研究テーマに基づく研究計画を立てる。必要に応じて計画を修正し、実行へと移す。	4時間

授業科目名	特別研究Ⅱ				
担当教員名	大学院担当教員				
学年・コース等	1	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

特別研究Ⅰで決定された研究課題に対して、担当教員から指導を受けながら、第1次中間報告会に向けて、研究成果をまとめ発表の準備をする。

【到達目標】

特別研究Ⅰでの研究方向性の決定を受けて、各自の研究に対する問題意識を鮮明にし、第1次中間報告会の構想発表を作成し、発表する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1. DP1. スポーツに対する関心・意欲	*	*

学外連携学修

無し

授業方法

- ・問答法・コメントを求める
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
演習課題に関するプレゼンテーション	：
60 %	
中間報告会の評価	： 研究課題の新規性、方法の妥当性、論理性
40 %	

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 研究の方向性の決定 特別研究Ⅰで立てた研究計画を見直し、ディスカッションし、課題を見つける。	課題に応じた修正を行う	4時間
第2回 研究計画の評価・修正 これまで取り組んできた計画を評価し、必要に応じた修正を行い、今期の計画を立てる。	修正内容に応じた研究計画を検討する	4時間
第3回 課題への取り組み 今学期に取り組む課題へ着手する。	課題に取り組む	4時間
第4回 研究方法の見直し	見直した方法に応じて取り組み方を検討する	4時間

	取り組んでいる研究方法を見直し、必要に応じた修正を行う。		
第5回	研究方法の準備 実行する研究方法についての準備（調査用紙の修正・予備調査など）を行う。	研究方法の準備に取り組む	4時間
第6回	研究方法の準備・実践 調査用紙の修正・予備調査などを実施し、評価を行う。	予備調査を行い、結果を評価する	4時間
第7回	調査方法の検討 調査用紙の修正・予備調査の分析から、調査方法を検討する。	自身の研究を進めるための研究方法を検討する	4時間
第8回	研究方法の習熟 研究の方向性に沿った論文を作成するために使用する研究方法を身につけていく。	研究方法を学習する	4時間
第9回	研究方法の決定 研究の方向性に沿った論文を作成するために使用する研究方法を決定する。	研究方法を決定する	4時間
第10回	研究方法実施に向けた準備 必要に応じて研究方法の理解や評価のための勉強を行う。	実施に向けた研究方法の準備	4時間
第11回	研究方法の確認 研究方法の理解の程度、進行状況を確認、評価し課題を検討する。	研究方法の学習、必要に応じて予備調査を行う	4時間
第12回	調査の準備① 実際に用いる調査用紙作成・修正に着手する。	調査用紙の準備	4時間
第13回	調査用紙の準備② 実際に用いる調査用紙作成・修正に着手する。必要に応じて先行研究を照らし合わせる。	調査結果の検討と修正	4時間
	実際に用いる調査用紙作成・修正に着手する。必要に応じてディスカッションを行い、評価し、本調査実施に向けた準備を完了する。		

授業科目名	特別研究Ⅲ				
担当教員名	大学院担当教員				
学年・コース等	2	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

第1次中間審査で発表した研究課題について、指導を受けながら修士論文完成に向けて、調査、実験、考察を進める。

【到達目標】

専攻するスポーツ分野における現状や課題を理解し、個人的興味や現場での問題を基に研究課題を設定し、研究デザインを作成し、調査を遂行、結果の分析・解釈、研究の発表という一連の学習を行う。

養うべき力と到達目標

1. DP1. スポーツに対する関心・意欲

具体的内容：

この項目は使用しません。

目標：

この項目は使用しません。

学外連携学修

無し

授業方法

- ・問答法・コメントを求める
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

計画に関するプレゼンテーション

:

20 %

修士論文計画書

:

20 %

中間報告に関するプレゼンテーション

:

20 %

第2次中間報告会

:

内容、方法、構成、展開

40 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

授業計画

第1回 修士論文の構想

学修課題

第一回中間報告会でのフィードバックを参考に研究計画の再検討を行うための問題を明らかにする。

授業外学修課題にかかる目安の時間

4時間

	各自の修士論文を製作する上での、現在の問題意識を十分に練り、研究方法・研究計画を確立させる。		
第2回	進捗状況の確認 再検討を行った研究計画をもとに進捗状況を確認し、計画を再検討する。	最終的な研究計画決定のための課題を明らかにする。	4時間
第3回	本調査・実験実施への計画立案 予備調査・実験の結果を参考に本調査・実験実施に向けた計画を作成する。	本調査・実験実施に向けた計画の検討	4時間
第4回	本調査・実験実施への準備 本調査・実験実施に向けた調査用紙の準備、その他必要な準備を行う。	本調査・実験実施に向けた準備を行う	4時間
第5回	本調査・実験の実施① 本調査・実験を実施する。	調査・実験を確実に遂行させ、データ収集を行う。	4時間
第6回	本調査・実験の実施② いくつかの現場から調査・実験を実施する。	集めたデータはすぐに整理し、入力を開始する。	4時間
第7回	データの入力・分析 本調査・実験のデータを入力・分析を行う。	随時指導教員に報告・確認しながら進める。	4時間
第8回	分析結果の理解・考察 分析した結果を理解し、考察する。必要に応じて様々な分析を行う。	先行研究を照らし合わせ、考察を行う。	4時間
第9回	第2次中間審査に向けた準備 ある程度の結果をまとめ、審査会の準備を行う。	課題へ取り組む。	4時間
第10回	審査会後の確認・修正 審査会にて受けたフィードバックや指摘を参考に、最終的な論文完成を目指し、課題を整理する。	副査・他の教員から指導を受け、最終的な完成に向けた課題を整理し、取り組む。	4時間
第11回	再分析 必要な追加分析を行い、結果をすべて出す。	課題へ取り組む。	4時間
第12回	結果の整理 調査・実験結果をすべて出し、整理し、研究課題や課題と照らし合わせる。	論文構成を考える。	4時間
第13回	論文構成を確定する 論文構成、内容を確定し、確認する。	執筆に入るために必要な内容を確認し、論文に必要な文献を整理する。	4時間
第14回	先行研究・関連文献の整理 ・執筆に向け、論文に必要な論文を整理する。 ・論文本文に用いる文献を読み込み、理解する。	論文に必要な文献を整理する	4時間

授業科目名	特別研究Ⅳ				
担当教員名	大学院担当教員				
学年・コース等	2	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

第3次中間報告会後に修士論文を完成させ、最終審査を受ける。

【到達目標】

第3次中間報告会での発表を経て、最終審査（審査・口頭試問）に合格する。

養うべき力と到達目標

1. DP2. 知識・技能

具体的内容：

この項目は使用しません。

目標：

この項目は使用しません。

学外連携学修

無し

授業方法

- ・問答法・コメントを求める
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

第3次中間報告会

:

40 %

最終審査（論文・口頭試問）

:

学術性、実践的有用性、妥当性

60 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 進捗状況の確認 分析・考察・執筆状況の確認から課題を見つける。	課題を整理し、計画を再検討する。	4時間
第2回 第3次中間審査に向けた準備 論文の進捗状況をまとめ、課題を整理し、審査会へ向けた発表の準備をする。	主査・副査・他の教員よりフィードバックを受け、課題を見つけ、取り組む。	4時間
第3回 論文完成に向けた最終計画立案 審査会でのフィードバックを受け、完成に向けて最終的に課題を整理し、取り組む計画を立てる。	計画通りに進めていく。	4時間

第4回	執筆-先行研究 テーマに即した先行研究をまとめ、章の執筆を行う。	随時指導教員に提出、フィードバックを受け、修正を行う。	4時間
第5回	執筆-結果 研究課題・仮説に即した結果を整理し、執筆を行う。	随時指導教員に提出、フィードバックを受け、修正を行う。	4時間
第6回	執筆-考察 研究課題・仮説に即した結果を考察し、まとめ、執筆する。	随時指導教員に提出、フィードバックを受け、修正を行う。	4時間
第7回	執筆-序論 序論の内容を整理し、最終的な研究課題・仮説を内容と一致させ、序論を執筆する。	随時指導教員に提出、フィードバックを受け、修正を行う。	4時間
第8回	執筆-まとめ 第1段階での論文をまとめ、結論までとりつく。	随時指導教員に提出、フィードバックを受け、修正を行う。	4時間
第9回	論文の修正 指導教員からの指導を受け、必要な修正を行う。	指導教員からの指導を受けながら、執筆、修正を繰り返す	4時間
第10回	他の教員、外部関係者からのフィードバック 他の教員・副査、外部関係者などのフィードバックを受け、整合性を高め、論文としての完成を目指す。	関係者の指導を受けながら、執筆、修正を繰り返す。	4時間
第11回	論文の完成 最終論文の執筆を終え、完成させる。	論文を完成させる。	4時間
第12回	論文の要約 論文の内容を端的にまとめる。また、その内容を英語に翻訳する。	論文を要約し、英語に翻訳する。	4時間
第13回	研究の総括 自身の研究を総括（成果の確認等）、整理し、最終審査会・現場へのフィードバックのための資料等を準備する。	自身の研究を総括し、最終審査の準備を行う。	4時間
第14回	審査会に向けた準備 ・審査会にて発表する準備を行う。 ・これまでの審査での指摘を中心に修正を行い、最終発表会に向けた準備を行う。	最終審査の準備を行う。	4時間

授業科目名	アカデミックイングリッシュ				
担当教員名	林綾子・各指導教員				
学年・コース等	1	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

【授業概要】 スポーツ学に関する英語論文講読とプレゼンテーションに取り組むことから、専門分野に関する国際的アプローチへの一歩を踏み出す。

【到達目標】

- 1) 学術領域、特にスポーツ分野にて用いられる英語の語学力を高め、専門領域に関する英語論文を読みとくことができる。
- 2) 英語論文講読により得られた情報を整理し、レビューすることができる。
- 3) 自身の研究テーマと照らし合わせ、レビュー内容を英語にてプレゼンテーションすることができる。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1. DP1. スポーツに対する関心・意欲	この項目は使用しません	この項目は使用しません

学外連携学修

無し

授業方法

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
 - ・各自の取り組みに対し、授業担当者・指導教員にて随時フィードバックを行います。

成績評価

注意事項等

- ・レビュー内容(50点)・プレゼンテーション(50点)により評価を行う。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

学術論文検索・用語理解	20 %	： 英語論文講読に必要な専門用語の整理、関連学術雑誌の探索、アブストラクトの検索、分野における重要論文の検索について、ファイリングし、その内容を評価する。
学術論文のレビュー	40 %	： 自身のテーマに関する重要論文3編を読み込み、作成したレビューレポートを評価する。
アカデミックプレゼンテーション	40 %	： レビュー内容を中心に、自身の研究テーマに関連付けた英語でのアカデミックプレゼンテーションを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

各自指導教員と確認すること。

履修上の注意・備考・メッセージ

特別研究Ⅰ・Ⅱでの取り組み、修士論文研究に役立つよう、指導教員とよく相談の上進めること。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 イントロダクション（林綾子） 英語論文購読に必要な基礎的専門用語の確認と、専門分野に関する論文検索方法の確認・検索を行う。	自分の領域における専門用語の確認、関連学会・学術雑誌・データベースについて調べ、指導教員と確認し、各自のテーマに沿った論文検索を開始する。	4時間
第2回 論文検索開始・抄録講読 専門分野における海外の学術雑誌、データベースについて調べ、検索を開始する。	abstractの理解から、論文検索を実施する。	4時間
第3回 論文検索継続（指導教員） abstractを参考に研究テーマに即した論文をあつめ、参考になる論文をみつける。	abstractを読み、参考になる論文を絞り込む。	4時間
第4回 論文講読①（指導教員） 選んだ論文を講読する。内容のまとめ方、理解の確認を指導教員と行う。	各自論文を読み、まとめる。	4時間
第5回 レビューの作成（指導教員） 読んだ論文をまとめ、レビュー作成にとりかかる。	必要に応じてさらに論文を検索し、講読する。	4時間
第6回 レビューを指導教員と確認し、必要に応じて修正を行う。 レビューを指導教員と確認し、必要に応じて修正を行う。	必要に応じてさらに論文を検索し、講読する。	4時間
第7回 英語での研究発表について（林綾子） 英語の研究発表についての基礎を確認し、レビューをプレゼンテーションへと発展させる。	各自の発表構成を考える。	4時間
第8回 英語プレゼンテーション作成①（指導教員） 各自の発表内容の構成を考え、指導教員と確認する。	パワーポイントの作成にとりかかる。	4時間
第9回 英語プレゼンテーション作成②（指導教員） パワーポイントを作成し、指導教員と確認する。	パワーポイントの修正を行う。	4時間
第10回 英語プレゼンテーションの練習①（指導教員） 完成したパワーポイントを用いてプレゼンテーションを行う原稿を作成する。	各自原稿作成に取り組む。	4時間
第11回 英語プレゼンテーションの練習②（指導教員） 原稿とパワーポイントを用い、プレゼンテーションの練習を行う。	各自必要に応じて修正を行い、発表練習を行う。	4時間
第12回 英語プレゼンテーションの実施①（林綾子） 自分のテーマに関する論文購読より作成したレビューについて英語でプレゼンテーションの練習会を行う。お互いのプレゼンテーションを評価し、修正し、プレゼンテーション完成をめざす。	フィードバックを受け、各自の課題を明確に理解する。	4時間
第13回 英語プレゼンテーションの実施②（林綾子・指導教員） 自分のテーマに関する論文購読より作成したレビューについて英語でプレゼンテーションを行う。お互いのプレゼンテーションの評価を行う。また、教員からのフィードバックを受ける。	フィードバックを受け、各自の課題を明確に理解する。	4時間
第14回 まとめ（林綾子） 全体をふりかえり、まとめ、今後の研究活動にどのようにつなげていくか考える。	修士論文製作・研究活動に積極的に取り込んでいけるよう課題を明確にする。	4時間

授業科目名	インターンシップ				
担当教員名	大学院担当教員				
学年・コース等	2	開講期間	前期	単位数	4
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

1年前期から2年前期の間にインターンシップを実施する。実践的な問題解決能力を育成するため、担当教員の指導のもと、学外の学校・団体・研究組織等で実践的な経験をつむ。

【到達目標】

大学で今後のキャリアに直結する理論を学習した上で、インターンシップ実習先で活動を実践し理論と実践の融合をはかる。さらに、インターンシップ先で得た課題や成果を自身の研究とキャリア形成に活用する。また、将来の教員・コーチ・アスリート・研究者・公務員・一般企業などを目指す上で、個々の能力と関連した実践的な問題解決能力を育成する。

養うべき力と到達目標**具体的内容：**

1. DP1. スポーツに対する関心・意欲

この項目は使用しません。

目標：

この項目は使用しません。

学外連携学修

無し

授業方法

- ・実験、実技、実習
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・見学、フィールドワーク
- ・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価**成績評価の方法・評価の割合**

事前事後指導・実習を総合的に判断する

評価の基準

： 事前準備、実習評価報告書、日誌、成果報告会等を基に総合的に判断する

100 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

将来につながる最も重要な実習であり、熟慮と十分な準備をもって取り組んで欲しい。

授業計画**学修課題****授業外学修課題にかかる目安の時間**

第1回

事前指導①

指導教員と話しながら、教員、プロ選手、指導者、研究者、公務員、医療関係など自分の将来の進路に沿ったインターンシップ先について熟考する。

積極的に様々なインターンシップ先に関する資料を収集する。

4時間

第2回

事前指導②

より幅広い視点が持てるようにインターンシップ先に関する資料整理を行う。

4時間

	インターンシップ先に何度か足を運び、インターンシップ先の状況を把握し、自分の問題意識からそこで取り組む内容を考える。		
第3回	事前指導③ 指導教官とインターンシップで行う内容について、よく相談する。院生とインターンシップ先の位置づけについてよく考える。何を学び、身につける場とするのか考える。	先輩などからの意見を聞いておく。	4時間
第4回	事前指導④ 指導教官と行う内容に応じて、知識や情報など入念な下準備を行う。インターンシップ先で何を行うのかによって、準備に入る。	計画を立てた内容に沿った準備を始める。	4時間
第5回	事前指導⑤ 実習先と相談し、必要な準備をおこなう。	詳しい状況を調べ、どのような準備をすればいいのか注意して行う。	4時間
第6回	事前指導⑥ 実習先と相談し、準備をおこなう。	何度も、繰り返し先方との確認を行う。先輩からのアドバイスも大切にす。	4時間
第7回	事前指導⑦ 実習先と相談し、準備をおこなう。	実習実施に向けた準備を整える。	4時間
第8回	実習① 実際の実習を行う。	積極的に実習に取り組む。	4時間
第9回	実習② 実際の実習を行う。	計画通りに常に進捗を確認しながら行う。	4時間
第10回	実習③ 実際の実習を行う。	先方と常に反省会をする。	4時間
第11回	実習④ 実際の実習を行う。	丹念な記録を残しておき、修士論文に結びつく内容を常に確認する。	4時間
第12回	事後指導① 実習で学んだことを整理し、報告会の資料作成を行う。また、指導教官と修士論文につなげて行く準備を行う。	データ等の処理の方法を考える。	4時間
第13回	事後指導② 実習で学んだことを整理し、報告会のプレゼンテーション練習を行う。また、指導教官と修士論文につなげて行く準備を行う。	実際の反省をしながら、データ処理を行い、欠落したものはないか確認して行う。	4時間
第14回	事後指導③ プレゼンテーションの振り返りの中で実習で学んだことを整理し、指導教官と修士論文につなげて行く準備を行う。	全体を通してまとめていく。	4時間

授業科目名	スポーツフィールド・プラクティカム				
担当教員名	大学院担当教員				
学年・コース等	1	開講期間	通年	単位数	2
授業形態	実技				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

スポーツフィールド（実践/指導現場・研究領域等）にて直面している課題に対し、フィールドとの連携の基、それぞれの専門分野にて学習した知識を適用することで、課題解決を図り、課題発見能力・問題解決能力を養い、スポーツ現場における課題に対応する方法論、および実践力を習得する。スポーツフィールドの選択、課題設定、実施内容についてはそれぞれの専門領域、修士論文課題、将来的な職業選択内容により、指導教員と相談の上、幅広い視点からの実践的学習機会となるよう検討を行う。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1. DP1. スポーツに対する関心・意欲	この項目は使用しません。	この項目は使用しません。

学外連携学修

有り(連携先：専門領域・実習内容による)

授業方法

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・見学、フィールドワーク
- ・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合

事前・実習・事後学習を総合的に判断する

評価の基準

： 実習内容・課題により、事前・実習・事後評価の割合は異なる。

100 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

将来的にスポーツの現場にて活躍するために自分自身が必要な力を付ける機会として、明確な課題設定・課題への取り組み計画等の十分な準備の上、実り多い実習となるよう取り組みましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項： 各自指導教員と相談すること。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	事前指導① 指導教員と相談し、将来の進路に沿った実習内容について熟考する。	専門領域に関する現場について調べる。 4時間
第2回	事前指導② 実習で目指す課題を明確にし、課題に対する計画・実習内容を検討する。	課題達成に必要な学習について情報収集・学習を行う。 4時間
第3回	事前指導③ 実習内容に応じて、必要な知識・スキルを整理し、準備を行う。	必要な連絡・準備を行う。 4時間
第4回	実習① 実習を実施し、実習日誌に記録を行い、随時実習担当者から指導を受ける。	実習日誌に記録を取る。 4時間
第5回	実習② 実習を実施し、実習日誌に記録を行い、随時実習担当者から指導を受ける。	実習日誌に記録を取る。 4時間
第6回	実習③ 実習を実施し、実習日誌に記録を行い、随時実習担当者から指導を受ける。	実習日誌に記録を取る。 4時間
第7回	実習④ 実習を実施し、実習日誌に記録を行い、随時実習担当者から指導を受ける。	実習中間評価を行い、後半に向けた準備を行う。 4時間
第8回	実習⑤ 実習を実施し、実習日誌に記録を行い、随時実習担当者から指導を受ける。	実習日誌に記録を取る。 4時間
第9回	実習⑥ 実習を実施し、実習日誌に記録を行い、随時実習担当者から指導を受ける。	実習日誌に記録を取る。 4時間
第10回	実習⑦ 実習を実施し、実習日誌に記録を行い、随時実習担当者から指導を受ける。	実習日誌に記録を取る。 4時間
第11回	実習⑧ 実習日誌や、実習に関するデータをまとめ、実習を締めくくる。	書類・データをまとめる。 4時間
第12回	事後指導① 実習日誌を整理し、課題に対する取り組みをふりかえり、修士論文や進路にどう活かしていくか指導教員と相談する。報告会用のプレゼンテーション準備にとりかかる。	日誌の整理、発表準備 4時間
第13回	事後指導② 報告会にて実習についてプレゼンテーションを行う。他のプレゼンテーションからもスポーツフィールドについての理解を深める。	実習先への報告・お礼等を行う。 4時間
第14回	事後指導③ 実習・発表・評価を通して自身の学びをまとめ、具体的な今後の課題設定・活用方法を明確にする。	学習成果をまとめる。 4時間

授業科目名	スポーツ文化論特論				
担当教員名	黒須 朱莉				
学年・コース等	1	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本科目のねらいは、スポーツと社会の関係や、スポーツの可能性や在り方を展望できる能力を養うことにある。具体的には、スポーツ文化をスポーツ観、スポーツ規範、スポーツ技術・戦術、スポーツの物的事実の4つの側面から捉え、具体的事象を多角的な視点から解釈し、今後の展望について考察していく。

到達目標は以下の通りである。
「スポーツ文化に関する基礎的な理論を理解し、説明することができる」
「スポーツと社会の関係を多角的に理解し、論じることができる」

養うべき力と到達目標**具体的内容：**

1. DP1. スポーツに対する関心・意欲

この項目は使用しません。

目標：

この項目は使用しません。

学外連携学修

無し

授業方法

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価**成績評価の方法・評価の割合**

授業内課題

40 %

プレゼンテーション及び議論

60 %

評価の基準

： 各課題の内容を対象に、知識の習得、論理的思考を評価する。

： 具体的なスポーツ文化を対象に、調査内容を踏まえて今後の展望について論理的に述べられているか、他者の意見を踏まえて建設的な議論を展開できているか評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

必要に応じて指定する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は、一方的な講義で完結せず、受講生の課題発表と活発な議論を重要な取り組みとして位置付けている。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項： 初回の授業時にアナウンスする。

授業計画**学修課題****授業外学修課題にかかる目安の時間**

第1回	スポーツ文化の基礎的理解①（スポーツ観、スポーツ規範） 学術書や論文を輪読しながら、基本的なスポーツ観、スポーツ規範の理論的枠組みについて理解する。	授業の復習と次回指定のテキストをまとめる。	4時間
第2回	スポーツ文化の基礎的理解②（スポーツ技術・戦術、スポーツの物的事象） 学術書や論文を輪読しながら、基本的なスポーツ技術・戦術、スポーツの物的事象に関する側面を理解する。	授業の復習と次回指定のテキストをまとめる。	4時間
第3回	スポーツ政策の理解 学術書や論文を輪読しながら、基本的なスポーツ政策という領域について、身近な国内のスポーツに関わる政策（施策）に関わる事例を通して理解する。	授業の復習と次回指定のテキストをまとめる。	4時間
第4回	スポーツにおけるナショナルティの理解①歴史 学術書や論文を輪読しながら、「スポーツにおけるナショナルティとは何か」について、歴史的なスポーツ・ナショナルティの事例を通して理解する。	授業の復習と次回指定のテキストをまとめる。	4時間
第5回	スポーツにおけるナショナルティの理解②現代 「スポーツにおけるナショナルティとは何か」について、今日のスポーツ・ナショナルティの事例を通して理解しながら、文化としてのあり方を考察する。	授業の復習と次回指定のテキストをまとめる。	4時間
第6回	スポーツ教育の文化性を理解する①歴史 学術書や論文を輪読しながら、「スポーツ教育とは何か」について、歴史的なスポーツ教育の事例を通して理解する。	授業の復習と次回指定のテキストをまとめる。	4時間
第7回	スポーツ教育の文化性を理解する②現代 「スポーツ教育とは何か」について、今日のスポーツ教育の事例を通して理解しながら、文化としてのあり方を考察する。	授業の復習と次回指定のテキストをまとめる。	4時間
第8回	スポーツ教育の文化性を理解する①歴史 「スポーツ経済とは何か」について、歴史的なスポーツの経済的側面に関する事例を通して理解する。	授業の復習と次回指定のテキストをまとめる。	4時間
第9回	スポーツ教育の文化性を理解する②現代 「スポーツ経済とは何か」について、今日のスポーツの経済的側面の事例を通して理解しながら、文化としてのあり方を考察する。	授業の復習と次回指定のテキストをまとめる。	4時間
第10回	スポーツ・メディアの文化性を理解する①歴史 「スポーツ・メディアとは何か」について、歴史的なスポーツ・メディア（新聞・ラジオ・TV）の事例を通して理解する。	授業の復習と次回指定のテキストをまとめる。	4時間
第11回	スポーツ・メディアの文化性を理解②現代 「スポーツ・メディアとは何か」について、今日のスポーツ・メディア（SNS等）の事例を通して理解しながら、文化としてのあり方を考察する。	授業の復習と次回指定のテキストをまとめる。	4時間
第12回	スポーツにおけるジェンダーの文化性を理解①歴史 「スポーツにおけるジェンダーとは何か」について、歴史的なスポーツとジェンダーの事例を通して理解する。	授業の復習と次回指定のテキストをまとめる。	4時間
第13回	スポーツにおけるジェンダーの文化性を理解②現代 「スポーツにおけるジェンダーとは何か」について、今日のスポーツとジェンダーの事例を通して理解しながら、文化としてのあり方を考察する。	授業の復習と次回指定のテキストをまとめる。	4時間
第14回	スポーツにおけるテクノロジーの文化性を理解 「スポーツにおけるテクノロジーとは何か」について、歴史的かつ今日のスポーツ・テクノロジーの事例を通して理解しながら、文化としてのあり方を理解・考察する。	授業の復習と次回指定のテキストをまとめる。	4時間

授業科目名	スポーツ文化論演習				
担当教員名	黒須 朱莉				
学年・コース等	1	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	＊				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本科目のねらいは、スポーツの文化的特性を理解した上で、具体的に、スポーツ政策、スポーツナショナリズム、スポーツ教育、スポーツ経済、スポーツメディア、スポーツとジェンダー、スポーツテクノロジーについて、スポーツ観、スポーツ規範、スポーツ技術、スポーツの物的事実の4つの側面から分析できる能力を実践的に養うことにある。

到達目標は以下の通りである。
「現在のスポーツに関する現象をスポーツ文化の4つの側面から分析を試み、自らその特性を理解できる」
「スポーツ文化のよりよい発展について自らの言葉で説明できる」

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1. DP1. スポーツに対する関心・意欲	この項目は使用しません	この項目は使用しません

学外連携学修

無し

授業方法

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合

授業内課題および課題レポート

評価の基準

： 課題内容とレポート内容、議論への参加度を対象に、スポーツ文化を実践的に分析できているかを評価する。

100 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

必要に応じて指定する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は受講生の課題発表、議論を中心的な取り組みとして位置づけている。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項： 初回の授業でアナウンスする。

授業計画

学修課題

授業外学修課題にかかる目安の時間

第1回	スポーツ文化の構造を理解①準備 スポーツ文化の基本的な構造をおさえながら、スポーツ文化について受講生の考えを出し合い、「自身とスポーツ文化」との関係を実感し、発展的に考察するための土台をつくる。	テキストの予習と次テーマのスポーツの時事問題を用意してくる。	4時間
第2回	スポーツ文化の構造を理解②発展的考察 スポーツ文化について受講生の考えを出し合い、今日における文化変容に関わる事例を各自の視点から議論し、スポーツ文化に対する考察を多角的に深める。	テキストの予習と次テーマのスポーツの時事問題を用意してくる。	4時間
第3回	スポーツ政策の文化性を理解①準備 政府によるスポーツ政策について事例を調査し、その意図と意義についての理解を深める。	テキストの予習と次テーマのスポーツの時事問題を用意してくる。	4時間
第4回	スポーツ政策の文化性を理解②発展的考察 地方レベルのスポーツ政策について事例を調査し、その意図と意義についての理解を深める。そのうえで、第3回の内容も踏まえて議論を通して、既存の政策に対する批判的な考察を行う。	テキストの予習と次テーマのスポーツの時事問題を用意してくる。	4時間
第5回	スポーツにおけるナショナルティの文化性を理解①準備 スポーツにおけるナショナルティにはどんなものがあるか、具体的な事例を通して理解を深める。	テキストの予習と次テーマのスポーツの時事問題を用意してくる。	4時間
第6回	スポーツにおけるナショナルティの文化性を理解②発展的考察 スポーツにおけるナショナルティにはスポーツを行う者に何をもちたか、具体的な事例を通して考察を深める。	テキストの予習と次テーマのスポーツの時事問題を用意してくる。	4時間
第7回	スポーツ教育の文化性を理解①準備 今日、どのようなスポーツ教育が行われているか、具体的な事例を通して理解を深める。	テキストの予習と次テーマのスポーツの時事問題を用意してくる。	4時間
第8回	スポーツ教育の文化性を理解②発展的考察 スポーツ教育の役割について、具体的な事例を通して現代的な意義や課題に対する考察を深める。	テキストの予習と次テーマのスポーツの時事問題を用意してくる。	4時間
第9回	スポーツ経済の文化性を理解①準備 今日どのようなスポーツの経済的側面が注目を集めているのか、具体的な事例を通して理解を深める。	テキストの予習と次テーマのスポーツの時事問題を用意してくる。	4時間
第10回	スポーツ経済の文化性を理解②発展的考察 今後のスポーツの経済的側面にはどのような視点が必要か、自分たちで出し合い多角的に考察を深める。	テキストの予習と次テーマのスポーツの時事問題を用意してくる。	4時間
第11回	スポーツ・メディアの文化性を理解①準備 今日どのようなスポーツ・メディアによる活動が特徴的か、具体的な事例を通して理解を深める。	テキストの予習と次テーマのスポーツの時事問題を用意してくる。	4時間
第12回	スポーツ・メディアの文化性を理解②発展的考察 今日のスポーツ・メディアの功罪は何か、具体的な事例を通して考察を深める。	テキストの予習と次テーマのスポーツの時事問題を用意してくる。	4時間
第13回	スポーツにおけるジェンダーの文化性を理解①準備 スポーツにおけるジェンダーは、如何に受け止められているのか、具体的な事例を通して理解を深める。	テキストの予習と次テーマのスポーツの時事問題を用意してくる。	4時間
第14回	スポーツにおけるジェンダーの文化性を理解②発展的考察 将来、スポーツにおけるジェンダーは如何に受け止められるべきか、具体的な事例を通して今後の展望に関する考察を深める。	テキストの予習と次テーマのスポーツの時事問題を用意してくる。	4時間

授業科目名	発育発達特論				
担当教員名	秋武 寛				
学年・コース等	1	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	＊				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

幼児から高齢者までの発育発達の経過を辿りながら、子どもの形態、運動能力、運動動作など、これまでの研究成果を基盤に議論を行う。発育発達に関する研究論文を読み、その内容を発表する。そのプレゼンテーション内容を基に、発育発達を中心に様々な観点からディスカッションを行い、議論を行う。

【到達目標】
議論を基盤にして、顕著に変化する子どもを対象とした運動実践や教材研究、身体の効果について追求する。あわせて生活様式の利便性や環境の変化により生じた様々な問題を論じる。

養うべき力と到達目標**具体的内容：**

1. DP1. スポーツに対する関心・意欲

この項目は使用しません。

目標：

この項目は使用しません。

学外連携学修

無し

授業方法

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価**成績評価の方法・評価の割合**

レポート・発表(毎時間)

評価の基準

： 発育発達や発育発達に関連する論文などの理解度やレポート内容、発表内容を評価する

100 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項： 発表するための事前準備をしっかりと行って下さい。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかか る目安の時間
第1回 ガイダンス 授業の展開方法や注意点の説明。参考文献の紹介を実施する。	今回の授業の学びのキーワードについて、下調べを行う。	4時間
第2回 子ども（乳幼児）の発育発達 発育発達に関する基礎的理論（主に乳幼児を対象に）を理解する。 発育発達に関する基礎的理論（主に乳幼児を対象に）を理解する。 発育発達に関する基礎的理論（主に乳幼児を対象に）を理解する。	本授業の復習と次回の授業の学びのキーワードについて、下調べを行う。	4時間
第5回 子ども（小・中学生）の発育発達 発育発達に関する基礎的理論（主に小・中学生を対象に）を理解する。 発育発達に関する基礎的理論（主に小・中学生を対象に）を理解する。 発育発達に関する基礎的理論（主に小・中学生を対象に）を理解する。	本授業の復習と次回の授業の学びのキーワードについて、下調べを行う。	4時間
第8回 子ども（高校生・大学生）の発育発達 発育発達に関する基礎的理論（主に高校生・大学生を対象に）を理解する。 発育発達に関する基礎的理論（主に高校生・大学生を対象に）を理解する。 発育発達に関する基礎的理論（主に高校生・大学生を対象に）を理解する。	本授業の復習と次回の授業の学びのキーワードについて、下調べを行う。	4時間
第11回 高齢者における身体運動の効果 加齢と老化の観点から、身体運動が心身にもたらす影響について、先行研究や論文などを理解する。 加齢と老化の観点から、身体運動が心身にもたらす影響について、先行研究や論文などを理解する。 加齢と老化の観点から、身体運動が心身にもたらす影響について、先行研究や論文などを理解する。	本授業の復習と次回の授業の学びのキーワードについて、下調べを行う。	4時間
第14回 発育発達の理論（性差について） 発育発達段階における身体特性について、特に男女差を中心に学ぶ。	本授業の復習と次回の授業の学びのキーワードについて、下調べを行う。	4時間

授業科目名	発育発達演習				
担当教員名	秋武 寛				
学年・コース等	1	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

幼児から高齢者までの発育発達の経過を辿りながら、運動能力と様々な側面との関連性についてこれまでの研究成果を基に議論を行う。

【到達目標】

議論を基盤にして、顕著に変化する幼児・児童を中心に子どもを対象とした運動実践や教材研究、身体の効果について学修する。自然科学論文執筆に必要な、これまでの研究論文の精査、実験計画、実験、データ整理、統計、論文執筆のための基礎的知識と実践力を養う。

養うべき力と到達目標**具体的内容：**

1. DP1. スポーツに対する関心・意欲

この項目は使用しません。

目標：

この項目は使用しません。

学外連携学修

無し

授業方法

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価**成績評価の方法・評価の割合**

レポート

40 %

実験計画、実験

50 %

ディスカッション

10 %

評価の基準

： 発育発達や発育発達に関連する論文などのレポート内容を評価する。

： 実験や調査を行うにあたり、関連論文を理解する。測定方法を確立し、実際に実験や調査を行う課程を評価する。

： 発育発達や発育発達に関連する論文などディスカッション内容を評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

授業計画**学修課題**

授業外学修課題に
かかる目安の時間

第1回	ガイダンス 授業の展開方法や注意点の説明。参考文献の紹介を実施する。	本授業の流れを整理し、到達目標を理解する。	4時間
第2回	研究的視点の構築 修士論文への問題意識を高める。	先行研究を調査する。	4時間
第3回	国内外の文献研究 先行研究の調査を実施する。 先行研究の調査を実施する。 先行研究の調査を実施する。	関心のある領域、分野に関する先行研究を調査する。	4時間
第6回	特定の研究課題 研究課題に対する問題点を把握する。 研究課題に対する問題点を把握する。 研究課題に対する問題点を把握する。	先行研究の問題点について整理しておく。	4時間
第9回	資料の収集 実際に行った実験・測定を発表する。 実際に行った実験・測定を発表する。 実際に行った実験・測定を発表する。	実験方法の整理、測定結果の分析を進めておく。	4時間
第12回	口頭発表及びディスカッション 修士論文をまとめるにあたっての口頭発表およびディスカッションを実施する。 修士論文をまとめるにあたっての口頭発表およびディスカッションを実施する。 修士論文をまとめるにあたって、口頭発表およびディスカッションを実施する。	口頭発表およびディスカッションができるよう、十分な準備をしておく。	4時間

授業科目名	地域スポーツ特論				
担当教員名	黒須・中道・村瀬				
学年・コース等	1	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	＊				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

地域（および社会）とスポーツに関する学びを深めるために、スポーツ文化、障害者スポーツ、高齢者スポーツに焦点をあてる。具体的には、スポーツを取り巻く社会の問題と変化、障害者スポーツを理解するための障害の概念や障害者スポーツの歴史的展開などについて、期待される高齢者スポーツを理解するための高齢者のおかれている現状やスポーツと健康増進の関係を生理的に学ぶことを通して、スポーツが地域社会に果たす役割やスポーツ・イン・ライフの可能性を理解する。

養うべき力と到達目標**具体的内容：**

1. DP1. スポーツに対する関心・意欲

スポーツ・イン・ライフの意義と理念

目標：

スポーツが地域社会に果たす役割やスポーツ・イン・ライフの可能性を理解する。

学外連携学修

無し

授業方法

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・その他(以下に概要を記述)

授業の際に各教員がそれぞれの方法でコメントする。

成績評価**成績評価の方法・評価の割合**

レポート

評価の基準

： 授業ごとの確認のコメント、あるいはレポートを提出させる。それらに記された全体的内容から理解度を評価する。担当者の成績を集計し、本科目の成績を判断する。

100 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

必要に応じて、各教員から紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

特になし

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業教室

備考・注意事項： 各教員にメールで問い合わせること。

授業計画

第1回 授業ガイダンス／社会とスポーツ（黒須）

学修課題

授業の復習と次回の予習としてレジュメを作成する。

授業外学修課題にかかる目安の時間

4時間

	当授業の前半（第5回まで）は、「社会とスポーツ」の関係に焦点をあてる。まず第1回目の授業では、前提となる「社会の状況とスポーツの関係性」について理解する。		
第2回	スポーツと社会を考える：歴史学の視点（黒須） 現代のスポーツと社会を捉えるための視点として歴史学における立場を採用し、社会で「問題」とされる事象の見方を学ぶ。	授業の復習と次回の予習としてレジュメを作成する。	4時間
第3回	スポーツと社会を考える：環境問題と国際的動向（黒須） 現代のスポーツと社会を捉えるための対象として環境問題と国際的動向に着目し、社会問題としての環境について理解する。	授業の復習と次回の予習としてレジュメを作成する。	4時間
第4回	スポーツと社会を考える：ポスト東京2020大会の国際関係（黒須） ポスト東京2020大会のスポーツと社会を捉えるための視点として国際関係論を採用し、国際社会で「問題」とされる事象の見方を学ぶ。	授業の復習と次回の議論に向けてレジュメを作成する。	4時間
第5回	スポーツと社会を考える：テクノロジーとスポーツ（黒須） 現代のスポーツの変容をテクノロジーとの関係から議論する。また、1回から5回までの総括として、4回までの内容の整理しつつ、第5回の議論を踏まえて「社会及び地域社会とスポーツ」の展望について議論する。	1回から5回までの総括として課題レポートを作成する。	4時間
第6回	障がいとスポーツ①（中道） 障がい者スポーツの一構成概念である「障害」の諸相について障害学の視点から学修する。	資料を参考に、ICIDHとICFの特徴とその違いについて整理し、理解しておく。	4時間
第7回	障がいとスポーツ②（中道） 身体障がい者を中心とした地域での自立生活の歴史、そこでの主張および障害概念について学修する。	資料を参考に、障害者権利条約の批准・発効および障害者差別解消法の施行に至るまでの全国青い芝の会の活動を整理し、理解しておく。	4時間
第8回	障がいとスポーツ③（中道） 障がい者スポーツの歴史及び現状について学修する。	資料を参考に、ルードヴィッヒ・グットマンおよび中村裕の功績や理念を整理し、理解しておく。	4時間
第9回	障がいとスポーツ④（中道） 地域における障がい者スポーツの現状および課題について学修する。	資料を参考に、地域における障がい者スポーツ普及促進の必要性や課題、取組方策、関係者に求められる役割・取組を整理し、理解しておく。	4時間
第10回	障がいとスポーツ⑤（中道） アダプテッド・スポーツやインクルーシブ体育の理念と現状、今後の障がい者スポーツの展望について学修する。	6回から10回までの復習をし、課題レポートを作成する。	4時間
第11回	スポーツと環境①〈スポーツ科学と環境科学〉（村瀬） スポーツ科学と環境科学の関係、およびスポーツが環境に与える影響について、実際の事例から考える。	授業の復習と次回の予習を行う。	4時間
第12回	スポーツと環境②〈スポーツと大気汚染〉（村瀬） 環境がスポーツに及ぼす影響のうち、特に大気汚染とスポーツとの関係について考える。	授業の復習と次回の予習を行う。	4時間
第13回	スポーツと環境③〈地球温暖化問題とスポーツ①〉（村瀬） 環境がスポーツに及ぼす影響のうち、地球温暖化問題の歴史的経緯について考える。	授業の復習と次回の予習を行う。	4時間
第14回	スポーツと環境④〈地球温暖化問題とスポーツ②〉（村瀬） 環境がスポーツに及ぼす影響のうち、地球温暖化問題とスポーツとの関係について考える。	第11回から14回までの総括として、課題レポートを作成する。	4時間

授業科目名	地域スポーツ演習				
担当教員名	黒須・中道・村瀬				
学年・コース等	1	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

スポーツ文化、障害者スポーツ、高齢者スポーツの3つのアプローチから地域（および社会）とスポーツについて深く学んでいく。具体的には、スポーツ文化と障害者スポーツを対象とした諸研究群の批判的検討を行うことを通して、論点と研究上の課題を整理する。また、高齢者スポーツについては実際に測定、データ収集、解析を行い、その意味を理解、評価する。これらを通して、スポーツ・イン・ライフのあり方と地域（および社会）とスポーツの可能性について理解を深める。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1. DP1. スポーツに対する関心・意欲	スポーツ・イン・ライフの意義と理念	スポーツ・イン・ライフのあり方と地域（および社会）とスポーツの可能性について理解を深める。

学外連携学修

無し

授業方法

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・その他(以下に概要を記述)

授業の際に各教員がそれぞれの方法でコメントする。

成績評価

成績評価の方法・評価の割合

授業内課題およびレポート

100 %

評価の基準

： 各担当教員回における授業内課題の成果から、各教員独自のルーブリックに基づき理解度を評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

特になし

オフィスアワー・授業外での質問の方法

- 時間： 授業の前後
 場所： 授業教室
 備考・注意事項： 各教員にメールで問い合わせること。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	スポーツ文化（近代オリンピック）基礎①（黒須） ローカルかつグローバルなスポーツ文化の事例として近代オリンピックを取り上げ、社会との関係を論じた学術書および論文を輪読し、理解を深める。	授業の復習をし、次回テキストの予習とレジュメを作成する。	4時間
第2回	スポーツ文化（近代オリンピック）人権②（黒須） ローカルかつグローバルなスポーツ文化の事例として近代オリンピックを取り上げ、人権という視点から社会とスポーツの関係を、テキストの輪読と議論を通して理解する。	授業の復習をし、次回テキストの予習とレジュメを作成する。	4時間
第3回	スポーツ文化（近代オリンピック）環境③（黒須） ローカルかつグローバルなスポーツ文化の事例として近代オリンピックを取り上げ、環境という視点から社会とスポーツの関係を、テキストの輪読と議論を通して理解する。	授業の復習をし、次回テキストの予習とレジュメを作成する。	4時間
第4回	スポーツ文化（近代オリンピック）平和④（黒須） ローカルかつグローバルなスポーツ文化の事例として近代オリンピックを取り上げ、平和という視点から社会とスポーツの関係を、テキストの輪読と議論を通して理解する。	授業の復習をし、次回テキストの予習とレジュメを作成する。	4時間
第5回	スポーツ文化（近代オリンピック）まとめ⑥（黒須） 第4回までの授業の振り返りをおこない、議論を通して浮かび上がった各論点について事例を素材にしながらか議論する。	5回までの授業の復習と課題レポートを作成する。	4時間
第6回	障がい者のスポーツへの社会化①ー障がいを無意味化するスポーツ（中道） 障がい者のスポーツへの社会化に関わる書籍（障がいを無意味化するスポーツのルールや用具に着目したもの）をレポートにまとめ、これをもとにディスカッションを行う。	授業の復習、次回の予習をする。	4時間
第7回	障がい者のスポーツへの社会化②ー日常生活とスポーツ（中道） 障がい者のスポーツへの社会化に関わる書籍（障がいのある日常生活とスポーツとの関係に着目したもの）をレポートにまとめ、これをもとにディスカッションを行う。	授業の復習、次回の予習をする。	4時間
第8回	障がい者のスポーツへの社会化③ースポーツ参加と障がい受容の関連性（中道） 障がい者のスポーツへの社会化に関わる書籍（スポーツ参加と障がい受容の関連性に着目したもの）をレポートにまとめ、これをもとにディスカッションを行う。	授業の復習、次回の予習をする。	4時間
第9回	障がい者スポーツの諸相①（中道） オリンピック・パラリンピック教育の現状と課題を整理し、障がい理解教育のあり方についてディスカッションを行う。	授業の復習、次回の予習をする。	4時間
第10回	障がい者スポーツの諸相②（中道） 第6回から第9回までの講義を踏まえ、自身の関心事にもとづいた障がい者スポーツに関わるトピックの現状や課題等についてレポートを作成し、発表する。	5回までの授業の復習と課題レポートを作成する。	4時間
第11回	スポーツ環境論①ー塩分濃度等ー（村瀬） スポーツ環境を簡単な測定器で調べることで、スポーツにとっての環境について理解し、意味を考える。最初に、市販のペットボトル中のスポーツ飲料等の塩分濃度、ナトリウム、カリウムイオン含量を調べ、データの意味を考える。	授業の復習を行い、レポートをまとめる。	4時間
第12回	スポーツ環境論②ー汗を調べるー（村瀬） スポーツ活動と汗の関係について調べ、データの意味を考える。	授業の復習を行い、レポートをまとめる。	4時間
第13回	スポーツ環境論③ー光と紫外線ー（村瀬） スポーツ活動に大きな影響を与える光と紫外線量を調べ、データの意味を理解する。	授業の復習を行い、レポートをまとめる。	4時間
第14回	スポーツ環境論④ー温度ー（村瀬） スポーツ活動に大きな影響を与える温度環境を調べ、データの意味を理解する。	授業の復習を行い、レポートをまとめる。	4時間

授業科目名	野外スポーツ特論				
担当教員名	林 綾子				
学年・コース等	1	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	Wilderness Education Association (US & Japan)、Outward Bound USAにて冒険教育プログラム、指導者養成プログラム指導、WEAJ理事・指導者資格認定者。野外教育団体Outdoorsy Community ~ひらんちゅ~代表。(全14回)				

授業概要

多様な目的・対象者・自然環境・展開方法にて行われる野外スポーツについて、スポーツや教育のフィールドとしての自然環境との関わり方や、野外教育・冒険教育・環境教育の理論的背景と実践の状況を通して理解する。

到達目標

- 1) 多様化するニーズに応じた展開を、実践事例や背景となる理論や研究結果から理解できる。
- 2) 指導や運営に関する知識、実践の評価や効果測定を実践から理解できる。
- 3) 自身の専門分野からの野外スポーツ実践や研究へのアプローチを見出すことができる。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1. DP1. スポーツに対する関心・意欲	この項目は使用しません。	この項目は使用しません。

学外連携学修

無し

授業方法

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合

授業内課題への取り組み

30 %

グループプロジェクト

30 %

個人プロジェクト

40 %

評価の基準

： トピックに関する課題への理解を評価する。

： グループにて実践課題に取り組み、準備・運営・評価までを評価する。

： 授業を通じた学びを自身の専門領域・興味と照らし合わせて設定した個人プロジェクトの成果を評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- 「野外教育の理論と実際」(杏林書院)
- 「冒険教育の理論と実際」(杏林書院)

履修上の注意・備考・メッセージ

野外スポーツの基本は、人と自然との直接的な体験からより豊かな人生を目指すものです。多様な展開方法や可能性を理解することが、みなさんのスポーツ人としての幅を広げ、また他の人の豊かな人生の手助けできる手法の獲得となることを期待しています。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかか る目安の時間
第1回 授業の目的・課題・方法の理解 野外スポーツ特論導入 ・授業の目指しているもの、学習のための課題、進め方などについて理解する。 ・野外スポーツ特論の導入として、個人の体験をふりかえることから、野外スポーツ体験を理解し、野外スポーツと その関連概念を理解する。	授業の復習と、個人体験をふりかえり、その関連性を理解する。	4時間
第2回 スポーツとしての野外スポーツの多様性 ・多様な野外環境を活用した野外スポーツの種類、特性を理解する。 ・野外スポーツの現場での観察学習を実施し、それぞれの領域における専門性から状況を観察・理解し、ふりかえり、シェアリングすることで、現場の捉え方、研究的な視点を理解する。	興味のある野外スポーツについて、その特性・展開・研究成果を調べてくる。	4時間
第3回 体験学習・野外教育理論の理解 ・野外スポーツ体験を理解する上で重要な概念である”体験学習”の理論を理解し、野外教育基礎概念の理解へとつなげる。	授業の復習と、過去の体験学習についてふりかえり、理論と照らし合わせて理解を深める。	4時間
第4回 冒険教育の基礎概念 ・冒険の意義、冒険教育の歴史、冒険教育過程と理論的背景を理解する。	授業の復習と関連文献を読んでくる。	4時間
第5回 冒険教育の展開 ・冒険教育の多様な対象・目的に応じた展開と可能性について理解する。実技も取り入れる。	関連文献を読んでくる。	4時間
第6回 冒険教育の現状と課題・グループプロジェクト ・冒険教育に関するグループ小プロジェクトから、現状と課題について理解する。グループでの冒険教育プログラムを企画する。	グループにて冒険教育プログラムを企画する。	4時間
第7回 冒険教育プロジェクトの実施・評価 グループにてプログラムを企画・実施し、評価を行う。	一連のプロジェクトをレポートとしてまとめる。	4時間
第8回 アウトドアセラピューティックプログラムの基礎概念 ・アウトドアセラピューティックプログラムの対象者、目的、野外スポーツの活用方法について理解する。	関連文献を調べてくる。	4時間
第9回 アウトドアセラピューティックプログラムの展開 ・アウトドアセラピューティックプログラムの多様な展開について理解する。	興味のあるプログラムについて調べてくる。	4時間
第10回 アウトドアセラピューティックプログラムの現状と課題 ・アウトドアセラピューティックプログラムに関する小プロジェクトから、現状と課題について理解する。	課題についてまとめのレポートを作成する。	4時間
第11回 環境教育の基礎概念 ・環境教育の基礎概念、歴史、目的、方法を理解する。	関連文献を読んでくる。	4時間
第12回 環境教育の展開・現状と課題 ・環境教育の多様な目的・対象に応じた展開について理解する。	各自の興味に基づいたプログラミングを考える。	4時間
第13回 環境教育の実践 ・自然環境における活動ダメージを最低限に抑えるための「環境倫理」の理解とそのガイドラインLeave No Traceについて実践を通して理解する。	LNTの学びについてまとめる。	4時間
第14回 最終課題発表 ・これまでの理解をベースに、個人の最終課題を発表し、ディスカッションから互いに理解を深める。	最終レポートの提出	4時間

授業科目名	野外スポーツ演習				
担当教員名	林 綾子				
学年・コース等	1	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	Wilderness Education Association (US & Japan)、Outward Bound USAにて冒険教育プログラム、指導者養成プログラム(指導)、WEAJ理事・指導者資格認定者。野外教育団体Outdoorsy Community ~ひらんちゅ~代表。(全14回)				

授業概要

野外スポーツに関連する研究成果を、主に教育・心理・健康・レジャーの観点から、国内外の文献を通して理解する。また、指導・実践に必要な専門知識を身に付け、プログラム実施を行うことから実践力を身に付ける。

到達目標

- 1) 野外スポーツ関連研究を概観し、現状や課題を説明することができる。
- 2) 野外スポーツ研究にて用いられている手法に関する専門知識が得られる。
- 3) プログラム実践に必要な専門知識を身に付け、理論や根拠をベースとした企画・運営を実践することができる。

養うべき力と到達目標

具体的内容：

1. DP1. スポーツに対する関心・意欲

この項目は使用しません。

目標：

この項目は使用しません。

学外連携学修

無し

授業方法

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合

文献検索・先行研究のまとめ

30 %

グループプロジェクト

30 %

個人プロジェクト

40 %

評価の基準

： 興味に基づきまとめた先行研究に対して理解を評価する。

： グループにて実施した企画・運営を評価する。

： 自身の専門領域に関わる個人プロジェクト実施について評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- 「野外教育の理論と実際」(杏林書院)
- 「冒険教育の理論と実際」(杏林書院)

履修上の注意・備考・メッセージ

大学院レベルとして、確かな理論的理解・知識を反映させた実践力を身につけることを目指します。自身の思いをプログラム化し、安全に効果的に実践し、発展させるための評価・研究の手法も取り入れて総合的な学びを目指しましょう。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 授業の目的・課題・方法の理解 野外スポーツ演習導入 ・授業の目指しているもの、学習のための課題、進め方などについて理解する。 ・受講生の研究に関する興味・関心、実践面での経験・興味の把握する。	自身の興味や課題を明確にしておく	4時間
第2回 関連文献の理解、研究における現状の理解 ・それぞれの研究興味に基づいた関連領域に関する文献の収集・理解する。	文献検索、収集、読み込み	4時間
第3回 関連文献の理解、研究における課題の理解 ・文献の理解から、それぞれの領域における現状と課題を理解する（個人発表とディスカッション）。	課題に沿って、文献の内容をまとめる	4時間
第4回 テーマ設定と計画作成 ・理解した現状と課題から、今後の研究テーマの可能性を探る。	発表、ディスカッションにてあきらかになった課題を整理する	4時間
第5回 野外スポーツプログラムの企画 ・グループにて野外スポーツプログラムを企画する。	興味のある対象や内容、目的に関して調べる	4時間
第6回 野外スポーツプログラムの準備 ・グループにて野外スポーツプログラムの準備を行う。	グループにて企画・実践するプログラムの決定・準備	4時間
第7回 野外スポーツプログラム実践 ・グループにて野外スポーツプログラムの実践を行う。	プログラム実践をふりかえる、評価をまとめる。	4時間
第8回 野外スポーツプログラム実践をふりかえる ・実際に行ったプログラムを評価する。	プログラム評価より、課題を明らかにする	4時間
第9回 野外スポーツ研究計画 ・個人の経験・興味より野外スポーツの研究計画を立案する。	興味のある野外スポーツ関連文献を調べ、テーマを明確にする	4時間
第10回 野外スポーツ研究計画準備 ・個人の経験・興味より野外スポーツの研究計画を立案し、準備する。	研究計画をたて、必要な準備を行う	4時間
第11回 野外スポーツ研究計画実施 ・個人の経験・興味より野外スポーツの研究計画を立案し、実施する。	調査を実施する	4時間
第12回 野外スポーツ研究計画実施評価 ・研究結果を分析し、結果から考察を行う。	調査結果を分析し、結果を考察し、発表の準備を行う	4時間
第13回 野外スポーツ研究発表 ・研究結果の発表、ディスカッション、評価を行う。	ディスカッションや評価から、研究結果をまとめる	4時間
第14回 まとめ ・行った実践や研究をふりかえり、今後の個人における課題を明確にする。	今後の研究や実践についての方向性を明らかにし、レポートにまとめる	4時間

授業科目名	学校スポーツ特論				
担当教員名	黒澤寛己・大西祐司				
学年・コース等	1	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	黒澤寛己：高等学校教諭の経験を授業内容に活用している。				

授業概要

体育科教育学とは、体育科教育の原理を追求し、体育授業の絶えざる改善に役立てようとする学問領域である。その中でも体育科教育学における基礎理論を中核において授業を展開する。体育科教育学が専門科学分野として成立してから現在に至るまでの歩みを、諸外国の動向と合わせて学んでいく。具体的には、①体育科のカリキュラム論、②教授・学習指導論、③体育教師教育論、④体育科教育学の研究方法论である。受講生には、これまでの被授業経験や授業実践と基礎理論を往還させながら、専門的な学びを深めてほしい。

養うべき力と到達目標

具体的内容：

1. DP1. スポーツに対する関心・意欲

体育科教育に関する理論と、国内外の学校で実践されている体育授業の指導法。

目標：

多角的な視点から、体育授業を分析・検討する力を身に付ける。

学外連携学修

無し

授業方法

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求めめる
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合

毎時の課題レポート

評価の基準

： 毎時の授業テーマに則した課題レポートの提出を求めめる。その内容の理解度を評価する。

100 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

高橋健夫ほか編著 (2010) 新版 体育科教育学入門 (大修館書店)
 武田清彦ほか編著 (1997) 体育科教育学の探求 体育授業づくりの基礎理論 (大修館書店)
 岡出美則ほか編 (2015) 新版 体育科教育学の現在 (創文企画)

履修上の注意・備考・メッセージ

授業外の学習課題に取り組むことに加えて、講義内容に関連する文献や資料などについて自主的に予習・復習すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： オフィスアワー

場所： 黒澤寛己・大西祐司研究室

備考・注意事項： 面談を希望する場合は、事前にアポイントを取ること。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にか かかる目安の時間
第1回 体育科教育学の基本的性格 体育科教育学の成立 体育科教育学の対象と方法	体育科教育学の復習と次回のキーワードについて予習する。	4時間
第2回 学校体育を取り巻く状況 体育科の危機的状況 諸外国の動向	学校体育の現状の復習と次回のキーワードについて予習する。	4時間
第3回 体育科のカリキュラム論①（大西） 体育科カリキュラムの位置付けと役割	体育科カリキュラムの復習と次回のキーワードについて予習する。	4時間
第4回 体育科のカリキュラム論②（大西） 体育科カリキュラムの社会的・政治的諸相	体育科カリキュラムの変遷の復習と次回のキーワードについて予習する。	4時間
第5回 体育科のカリキュラム論③（大西） 体育科カリキュラムの目標、教科内容、評価	体育科の目標や内容の復習と次回のキーワードについて予習する。	4時間
第6回 教授・学習指導論①（大西） 英語圏にみる学習指導論	海外の学習指導論の復習と次回のキーワードについて予習する。	4時間
第7回 教授・学習指導論②（大西） 教師行動論（教授技術、相互作用）	教師行動論の復習と次回のキーワードについて予習する。	4時間
第8回 教授・学習指導論③（黒澤） 学習者論（素朴概念、運動有能感）	学習者論の復習と次回のキーワードについて予習する。	4時間
第9回 体育教師教育論①（黒澤） 体育教師像の動向と課題	体育教師教育論の復習と次回のキーワードについて予習する。	4時間
第10回 体育教師教育論②（黒澤） 教師の成長過程と支援体制	教師の成長過程の復習と次回のキーワードについて予習する。	4時間
第11回 体育教師教育論③（黒澤） 国内外にみる教員養成のスタンダード	国内外の教師論の復習と次回のキーワードについて予習する。	4時間
第12回 体育科教育学の研究方法論①（大西） 体育科教育学研究の動向と課題	体育科教育学研究の復習と次回のキーワードについて予習する。	4時間
第13回 体育科教育学の研究方法論②（黒澤） 体育科教育学研究における量的研究	体育科教育学研究の量的研究の復習と次回のキーワードについて予習する。	4時間
第14回 体育科教育学の研究方法論③（黒澤） 体育科教育学研究における質的研究	体育科教育学研究の復習と次回のキーワードについて予習する。	4時間

授業科目名	学校スポーツ演習				
担当教員名	黒澤寛己・大西祐司				
学年・コース等	1	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	黒澤寛己：高等学校教諭の経験を有する教員が担当している。				

授業概要

学校スポーツ教育に関連した論文を閱讀した後、自身で研究テーマを設定し、研究計画を立て、データの収集及び分析を行う。得られた結果をもとに、先行研究に照らし合わせて考察を進め、最終的には研究発表や討議形式で成果をまとめる。小中等学校の教育現場と連携し、実際の体育授業やスポーツ活動を対象として、現場での営みを科学する。受講生はこれまでの体育授業やスポーツ活動で教わる・教える立場を超えて、教育研究者としてそれらを「学ぶ」ことを目指す。

養うべき力と到達目標

具体的内容：

1. DP1. スポーツに対する関心・意欲

学校スポーツに関する研究課題を設定し、それを調査・分析する。

目標：

自らが設定した研究課題について、これまで学習した研究方法を用いて考察し、結果を発表する。

学外連携学修

無し

授業方法

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

成績評価の方法・評価の割合

研究計画

評価の基準

： 先行研究の現状や課題を踏まえ、研究テーマが設定され、適切な研究方法が設定されているか。

50 %

研究成果の発表

： 収集したデータを正しく分析し、先行研究に照らし合わせて考察し、わかりやすくまとめられているか。

50 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- 高橋健夫ほか編著 (2010) 新版 体育科教育学入門 (大修館書店)
 竹田清彦ほか編著 (1997) 体育科教育学の探求—体育授業づくりの基礎理論 (大修館書店)
 岡出美則編著 (2015) 新版 体育科教育学の現在 (創文企画)
 高橋健夫ほか編著 (2003) 体育授業を観察評価する (明和出版)

履修上の注意・備考・メッセージ

授業外の学習課題に取り組むことに加えて、関連する文献や資料などについて自主的に予習・復習すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

場所： 黒澤寛己・大西 祐司研究室

備考・注意事項： 面談を希望する場合は、事前にアポイントを取ること。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にか かかる目安の時間
第1回 体育科教育学の研究領域の概略 体育科教育の実践のための理論的研究 体育科教育の実践的研究	体育科教育学の研究領域の概略をノートにまとめ、資料を整理する。	4時間
第2回 文献調査① 研究興味に基づいた文献を収集し理解する。	先行研究をノートにまとめ、資料を整理する。	4時間
第3回 文献調査② 文献理解から、現状と課題について整理し発表する。	収集した資料をノートにまとめ、学校体育の現状と課題を整理する。	4時間
第4回 文献調査③ 発表を踏まえ、不足している情報を収集する。	収集した資料をまとめ、発表資料を作成する。	4時間
第5回 研究テーマの設定と研究計画の作成 理解した現状と課題から、研究テーマを設定し、研究計画を立てる。	研究テーマに関連した資料を集め、各分野ごとに整理する。	4時間
第6回 研究方法の検討 研究テーマに沿った対象、期間、分析方法、倫理的配慮について検討する。	研究方法をノートにまとめ、資料を整理する。	4時間
第7回 データの収集① 研究計画に沿ったデータを収集する。	授業観察記録を基に授業改善の課題をまとめる	4時間
第8回 データの収集② 研究計画に沿ったデータを収集する。	授業観察記録を基に、授業改善の提案資料を作成する。	4時間
第9回 データの分析① パソコンを用いてデータを入力し処理する。	入力したデータの確認を行う。	4時間
第10回 データの分析② 算出したデータをまとめ、比較し、統計処理などを行う。	作成したデータ資料の内容確認を行う。	4時間
第11回 考察 得られた結果から、先行研究をもとに考察を行う。	考察結果を分野ごとに分類する。	4時間
第12回 プレゼンテーション① 発表資料の作り方、発表の仕方について学ぶ。	研究の結果を発表するための資料を作成する。	4時間
第13回 プレゼンテーション② 発表資料の作成し、発表練習を行う。	授業中に指導された項目について、改善する。	4時間
第14回 プレゼンテーション③ 研究発表を行った後、受講生同士で討議する。	授業中の討議で指摘された点について、改善した資料を作成する。	4時間

授業科目名	健康教育演習				
担当教員名	股村 美里				
学年・コース等	1	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

保健科教育が学校教育及び学校保健の枠組みの中での位置付け、展開、諸外国で行われている保健教育を概観する。さらに、中学校、高等学校で特に注目されるテーマを取り上げる。学校現場での保健授業、保健教育活動や、授業を実施するにあたっての授業校正・運営・教材開発、授業評価、改善における課題を明確にする力量を高める。

【到達目標】

- ・健康教育を実践するにあたり必要な知識を説明できる
- ・現代的健康課題に関する知識と問題の所在を明らかにし、科学的根拠に基づいた健康教育を実践できる研究計画を立てることができる

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1. DP3. 思考・判断・表現	健康問題に関する問題の所在に関する知識	健康教育を実践するにあたり必要な知識を説明することができる

学外連携学修

無し

授業方法

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
授業内課題	： 与えられたトピックについての理解度を評価する。
70 %	
最終レポート	： 模擬授業を振り返り、その改善点と効果測定、一般汎用性について論理的に述べられているかを重視する
30 %	

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜授業内で、文献、ホームページなどを紹介する予定。

履修上の注意・備考・メッセージ

これまで培ってきた健康教育、保健教育の知識を基盤として、それらの実践力および効果測定力量を高め、研究につなげられるように互いに議論を深めよう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	オフィスアワー
場所：	股村研究室

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 ヘルスプロモーションと保健教育についての理解① ヘルスプロモーションとは 保健教育の基礎的知識を確認するとともに、現代の健康問題に対応したヘルスプロモーションとしての保健教育の重要性を理解する	保健教育について現在問題となっている事案について調べまとめる	4時間
第2回 ヘルスプロモーションと保健教育についての理解② 保健教育とは 保健教育の基礎的知識を確認するとともに、現代の健康問題に対応したヘルスプロモーションとしての保健教育の重要性を理解する	保健教育について現在問題となっている事案について調べまとめる	4時間
第3回 中学校における保健の授業① 性教育 心身の発達と心の健康のうち、性教育に関する国内外の研究にあたりまとめる	中学校における保健の授業構成・授業運営・教材研究・授業評価について、先行研究に当たるとともにまとめる	4時間
第4回 中学校における保健の授業② ストレスへの対応 心身の発達と心の健康のうち、ストレス対処に関する国内外の研究にあたりまとめる	中学校における保健の授業構成・授業運営・教材研究・授業評価について、先行研究に当たるとともにまとめる	4時間
第5回 中学校における保健の授業③ 健康と環境 健康と環境のうち、ごみ処理に関する国内外の研究にあたりまとめる	中学校における保健の授業構成・授業運営・教材研究・授業評価について、先行研究に当たるとともにまとめる	4時間
第6回 中学校における保健の授業④ 傷害の防止 傷害の防止のうち、交通事故の現状と原因に関する国内外の研究について理解する	中学校における保健の授業構成・授業運営・教材研究・授業評価について、先行研究に当たるとともにまとめる	4時間
第7回 中学校における保健の授業⑤ 自然災害 傷害の防止のうち、自然災害に備えることについての国内外の研究について理解する	中学校における保健の授業構成・授業運営・教材研究・授業評価について、先行研究に当たるとともにまとめる	4時間
第8回 中学校における保健の授業⑥ 喫煙と健康 健康な生活と病気の予防のうち、喫煙と健康に関する国内外の研究について理解する	中学校における保健の授業構成・授業運営・教材研究・授業評価について、先行研究に当たるとともにまとめる	4時間
第9回 中学校における保健の授業⑦ 睡眠と健康 健康な生活と病気の予防のうち、睡眠と健康に関する国内外の研究について理解する	中学校における保健の授業構成・授業運営・教材研究・授業評価について、先行研究に当たるとともにまとめる	4時間
第10回 高等学校における保健の授業① 性感染症 現代社会と健康のうち、性感染症に関する国内外の研究について理解する	高等学校における保健の授業構成・授業運営・教材研究・授業評価について、先行研究に当たるとともにまとめる	4時間
第11回 高等学校における保健の授業② 薬物乱用防止教育 現代社会と健康のうち、薬物乱用防止に関する国内外の研究について理解する	高等学校における保健の授業構成・授業運営・教材研究・授業評価について、先行研究に当たるとともにまとめる	4時間
第12回 高等学校における保健の授業③ 飲酒と健康 現代社会と健康のうち、飲酒と健康に関する国内外の研究について理解する	高等学校における保健の授業構成・授業運営・教材研究・授業評価について、先行研究に当たるとともにまとめる	4時間
第13回 高等学校における保健の授業④ 医薬品と健康 生涯を通じる健康のうち、医薬品と健康に関する国内外の研究について理解する	高等学校における保健の授業構成・授業運営・教材研究・授業評価について、先行研究に当たるとともにまとめる	4時間
第14回 保健教育の在り方の振り返りと保健を「教える」ことの意味 本演習を通して経験したすべての事柄について振り返るとともに、「教える」ことの難しさとそれを乗り越える方法について検討する	高等学校における保健の授業構成・授業運営・教材研究・授業評価について、先行研究に当たるとともにまとめる	4時間

授業科目名	臨床スポーツ医学特論				
担当教員名	小松 猛				
学年・コース等	1	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	スポーツ整形外科を専門とする臨床医として医療機関、スポーツ現場で医療行為を行う				

授業概要

スポーツ医学のトピックスに必要な知識を学ぶ。具体的には、スポーツ外傷・障害の病態・診断・治療・リハビリテーション、競技におけるドーピング検査の実態、薬剤使用に関する注意などである。また、メディカルサポートの実態を知り、各競技団体が取り組む医療的サポートやメディカルスタッフの役割を学ぶ。

- 【到達目標】
- ・スポーツ現場での医療部門の重要性について理解する
 - ・スポーツ外傷・障害、スポーツにおける整形外科的チェックを十分理解する

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1. DP1. スポーツに対する関心・意欲	この項目は使用しません。	この項目は使用しません。

学外連携学修

無し

授業方法

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

試験	50 %	：	スポーツ医学に関する知識が十分理解できているかを評価
授業内課題	20 %	：	授業で学んだことを適切な表現を用いて記載できているかを評価
授業内でのプレゼンテーションと質疑応答	30 %	：	授業中に学んだ内容に関するテーマについてプレゼンテーションを行い、内容が十分理解できているか、定められた形式に沿って行われているか、質問に対して的確な回答を述べられるかで評価

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	ガイダンスとスポーツ医学の分野で学ぶべき概略 この授業では、スポーツ医学についてどのような内容を授業を通して学ぶべきかを理解する。	スポーツ医学全般について情報収集をする	4時間
第2回	スポーツ外傷への実践的対応：病態、診断 スポーツ外傷の原因、診断方法を、具体的に実践したり動画を見ながら実践的に学ぶ。	授業で学んだスポーツ外傷の内容について、著書などを読んで理解する	4時間
第3回	スポーツ外傷への実践的対応：治療、リハビリテーション スポーツ現場で実際に行われるスポーツ外傷の予防方法、治療方法について、手術やリハビリの動画を見ながら学ぶ。	授業で学んだ具体的なリハビリテーション方法について復習する	4時間
第4回	スポーツ障害への実践的対応：病態、診断 スポーツ障害の原因、診断方法について、動画を見ながら実践的に学ぶ。	授業で学んだスポーツ障害の内容については再確認しておく	4時間
第5回	スポーツ障害への実践的対応：治療、リハビリテーション スポーツ現場で実際に行われるスポーツ障害の対処方法（予防、治療）について、手術やリハビリの動画を見ながら具体的に学ぶ。	障害の具体的な予防やリハビリテーション方法について理解を深める	4時間
第6回	スポーツ外傷・障害をテーマとしたプレゼンテーション 第2～5回の間で学んだスポーツ外傷・障害に関するテーマをまとめてプレゼンテーションを行う。プレゼンテーション後にその内容についてディスカッションする。	作成したプレゼンテーションの形式、内容について検証する	4時間
第7回	競技スポーツにおけるメディカルサポート スポーツイベントにおける医事委員会の活動と救護活動について、具体例を挙げながら学ぶ。また、プロチームなどのトップアスリートのサポートにおいて注意しなければならない点など、一般のスポーツ選手と様々な点で異なる事情を理解する。	メディカルサポートの内容について復習する	4時間
第8回	薬・ドーピングについて ドーピングの定義、禁止物質や行為、必要な手続きなどを様々な事例を通して学ぶ。競技種目や状況によって違反となる薬物が異なる事や、最新情報についても学ぶ。日常生活の中で、使用に注意すべき薬の有効性と副作用について理解する。	日頃常用する薬の中でドーピング禁止となるものを復習しておく	4時間
第9回	スポーツにおける救急事例、血液感染について スポーツにおける救急事例の具体例を見るながら、現場での適切な対処方法を学ぶ。各競技団体がやっている具体的な安全対策を理解し、傷害予防のための実践方法について学ぶ。また血液感染の起こるタイミングや感染症の病態を知ること、その対策について理解を深める。	傷害予防に対する競技団体がやってきた歴史を調べ、血液感染について復習する	4時間
第10回	女性アスリートに対するメディカルサポート 男性アスリートとは異なる女性アスリートが抱える医学的な問題に対して、解剖学的な構造と機能を理解することで、病態を深く知ると共に、必要な対応方法を学ぶ。	女性アスリートが抱える医学的な問題を理解できるように復習する	4時間
第11回	スポーツにおける内科的疾患に対する注意と対応（循環器系、脳神経系） 心臓、血管系の疾患、頭部外傷も含めた神経系の病態を理解し、突然死などの予防の対策、メディカルチェックの実態などを学習する。	循環器系、脳神経系の疾患に対する理解を深める	4時間
第12回	スポーツにおける内科的疾患に対する注意と対応（人体の恒常性、呼吸器系） 人間がいかなる環境においても活動するために必要な機能である恒常性（ホメオスターシス）について理解する。具体的には体温調節機能、身体を病原体から守るための免疫系について学ぶ。またスポーツ活動で重要とされる酸素摂取、二酸化炭素排出に関わる呼吸器系メカニズムと、異常をきたした時に起こる疾患について理解を深める。	人体の恒常性、呼吸器系のメカニズムを復習する	4時間
第13回	授業内容をテーマにしたプレゼンテーション 第7～13回で学んだ内科系疾患に関するテーマをまとめてプレゼンテーションを行う。プレゼンテーション後にその内容についてディスカッションする。	作成したプレゼンテーションの形式、内容について検証する	4時間
第14回	講義全体のまとめ スポーツにおけるメディカルサポートを円滑に行うためのあらゆる医学的知識について、今までの授業内容を振り返りながら学ぶ。	今までの講義内容を資料などを見ながら振り返る	4時間

授業科目名	臨床スポーツ医学演習				
担当教員名	小松 猛				
学年・コース等	1	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	スポーツ整形外科を専門とする臨床医として医療機関、スポーツ現場で医療行為を行う				

授業概要

競技スポーツ分野におけるスポーツ医学に関する主要な研究課題を理解し、自ら修士論文に発展可能な研究課題を探索、特定する。また、論文を繰り返し読み、メッセージを的確に読み取り、論文作成への足掛かりにする。そして、英語論文も含めたスポーツ医学の専門誌から複数の論文をピックアップし研究内容の方向性を検証し、研究計画をプレゼンし、具現化していく。

【到達目標】

- ・先行研究を探索し、未知の発見につながる研究課題を立案する
- ・研究方法として適切な対象、サンプルサイズ、研究方法の検討を行い、研究を具体化する

養うべき力と到達目標

具体的内容：

1. DP1. スポーツに対する関心・意欲

この項目は使用しません。

目標：

この項目は使用しません。

学外連携学修

無し

授業方法

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

レポート課題

： 与えられた論文の内容を分かりやすく、適切な表現を用いて解説しているかを評価。

50 %

プレゼンテーション

： あるテーマについて、適切に検索した論文を紹介し、自分なりの考えを分かりやすくまとめているかを評価。プレゼンテーションに使用したパワーポイントの内容についても評価する。

50 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

必要な際に、随時、プリントし配布する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

授業計画

第1回 **ガイダンスと医学論文の紹介**

学修課題

医学論文の特徴と雑誌の傾向について復習する

授業外学修課題にかかる目安の時間

4時間

	本講義の内容全体を聞き、医学論文が掲載されている雑誌とその特徴を学ぶ。		
第2回	研究テーマに従って、先行研究を模索 図書館・インターネットを利用する。医学論文雑誌を検索するためのサイトなどを知り、個人的に検索する幅を広げて様々な情報収集ができるようにする。	実際に自分の興味ある論文を検索する	4時間
第3回	先行研究の批判的な分析：検討項目の決定 先行研究について、批判的に検討する項目を決める。研究方法や分析方法が正しく行われているかを客観的に判断するポイントを学ぶ。	論文を読みながら、問題点をまとめる	4時間
第4回	先行研究の批判的な分析：検討する分野の調査 批判的に検討するために、その領域のあらゆる先行研究を検索し、収集して論文を読む。	論文を読んで検討する分野の参考にする	4時間
第5回	先行研究の批判的な分析：検討する分野の決定 批判的に検討する項目にしたがって、分野を決めて先行研究を検討してみる。	先行研究を繰り返して読み、客観的に評価するため内容を十分理解する	4時間
第6回	先行研究の批判的な分析：検討する分野の評価 先行研究を読んで、内容に批判するような問題はないのかを検討して理解を深める。	先行研究論文の評価をまとめる	4時間
第7回	統計処理について学ぶ：統計学的検討の種類と内容 統計処理の基本を学ぶ。使用ソフトとその具体的な使用方法も理解する。	統計処理に関する復習をする	4時間
第8回	統計処理について学ぶ：適切な統計学的検討の選択 具体的なスポーツにおける数値を使い、統計処理を実施してみる。	実際のデータで統計処理を行い、スムーズにできるように実践を繰り返す	4時間
第9回	英語論文を読む：専門用語の把握 研究の参考となる適切な論文を検索し、読みながら内容を把握する。	論文の中にある専門的な表現を、繰り返し読むことで覚える	4時間
第10回	英語論文を読む：主旨を読み取る 検索した論文を読みながら内容を把握し、それを簡潔にまとめる。	授業で不足していた論文内容の理解度を、再確認して更に深める	4時間
第11回	英語論文を読む：自分のテーマとの相違 研究に参考となる適切な論文を検索し、読みながら自分のテーマにとって参考になるかを把握する。	複数の自分のテーマに近い英語論文を読む	4時間
第12回	英語論文を読む：分かり易いプレゼンテーション 読んだ英語論文を的確に分かりやすくプレゼンテーションする。	授業内で不十分であった点を改善する	4時間
第13回	自分の研究テーマを設定し、関連する文献の収集 指導教員と相談しながら検索した先行研究に加えて、研究の参考になるような医学論文の内容について検討しながら、関連した文献を収集する。	検索した論文を読んで、それが参考文献になるか判断する	4時間
第14回	研究テーマに関連した文献のまとめ 収集した関連文献を整理し、それをプレゼンテーションする。	自分のテーマとなる参考文献をまとめて、知識の整理をする	4時間

授業科目名	スポーツマネジメント特論				
担当教員名	石井 智、山本 達三				
学年・コース等	1	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大阪ガス株式会社におけるトップアスリートのマネジメント及び、上流営業部署におけるスポーツによる健康なまちづくり事業の責任者などの実践経験を講義内容に結びつけている（石井）				

授業概要

本講義では、スポーツをプロダクトとして捉え、それに関わる事業をスポーツビジネスとしてみなし、スポーツ産業の市場拡大に向け、スポーツマネジメントおよびスポーツマーケティングの論理と実践を総合的に学習する。

【到達目標】

- ・スポーツ組織の内部環境・外部環境・ブランドのマネジメントについて理解し、その実践方法を説明することができる。
- ・スポーツ消費者を対象としたマーケティングについて理解し、その実践方法を説明することができる。

養うべき力と到達目標

具体的内容：

1. DP1. スポーツに対する関心・意欲

この項目は使用しません。

目標：

この項目は使用しません。

学外連携学修

無し

授業方法

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合

スポーツ組織論に関するレポート

25 %

スポーツマーケティングに関するレポート

25 %

授業を通じて学習した内容に関する論述試験

50 %

評価の基準

： 事業の計画と担当部署の組織化について、企業理念、使命、方向性、目標、組織構造などの組織的コンセプトやプロジェクトメンバーの動機付けと事業の評価に関する総合的な理解を評価する。

： ポーツ消費者のニーズを満たし満足度を高めるため行う、スポーツマーケティング・スポーツブランドマネジメント・スポーツスポンサーシップに関する総合的な理解を評価する。

： 授業を通じて学習した内容に関する総合的な理解を評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

よくわかるスポーツマーケティング（仲澤眞，吉田政幸編著 ミネルヴァ書房）2017
 スポーツ産業論・第6版（原田宗彦編著 杏林書院）2015
 スポーツマネジメント（原田宗彦・小笠原悦子編著 大修館書店）2008
 スポーツマーケティング（原田宗彦・藤本淳也・松岡宏高著 大修館書店）2008
 スポーツファイナンス（武藤泰明著 大修館書店）2008

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
 コロナ禍に対応して、zoomを用いた授業展開も適宜実施した。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日3限

場所： B311

備考・注意事項： 事前に下記のメールにてアポイントを取ってください。
yamamoto-tatsu@g.bss.ac.jp

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 スポーツマネジメントとは ・ビジネスマネジメントとしてのスポーツマネジメントの定義、設立・発展の背景、今後の方向性について理解を深める。	配布資料を資料を読み返し、ビジネスマネジメントとしてのスポーツマネジメントの定義、設立・発展の背景、今後の方向性について復習しておく。	4時間
第2回 スポーツ産業・スポーツ市場とは ・少子高齢社会におけるスポーツ産業の個別市場規模（スポーツ実施率・スポーツ人口・延べスポーツ人口・財支出・サービス支出などの派生需要）を題材とした消費構造の変容、時系列上でスポーツ消費行動に影響を与える時代要因・世代要因、について理解を深める。	配布資料を資料を読み返し、スポーツ産業について復習しておく。	4時間
第3回 スポーツ組織論：計画と組織化 ・スポーツ組織論の中でも、事業の計画と担当部署の組織化について、企業理念、使命、方向性、目標、組織構造などの組織的コンセプトとともに学習する。	配布資料を資料を読み返し、スポーツ組織論：計画と組織化について復習しておく。	4時間
第4回 スポーツ組織論：実行と評価 ・スポーツ組織論の中でも、プロジェクトメンバーの動機付けと事業の評価について、ゴールセッティング理論、マズローの欲求階層説、アダムスの公正理論などの有名なマネジメント理論とともに学習する。	配布資料を資料を読み返し、スポーツ組織論：実行と評価について復習しておく。	4時間
第5回 スポーツマーケティング ・スポーツ消費者のニーズを満たし満足度を高めるため、スポーツ組織は様々な働きかけを行う。この活動をマーケティングと呼び、その代表的なコンセプトのマーケティングミックス（7P, 4C）について学習する。	配布資料を資料を読み返し、スポーツマーケティングについて復習しておく。	4時間
第6回 スポーツブランドマネジメント ・コアスポーツプロダクトとサービスマーケティングミックスを統合し、魅力的で一貫したブランドイメージの形成に欠かすことのできないブランドマネジメントのロジック（エクスペリエンス、エクイティ、レピュテーション、コミットメント、行動的・態度的ロイヤリティ）について学習する。	配布資料を資料を読み返し、スポーツブランドマネジメントについて復習しておく。	4時間
第7回 スポーツスポンサーシップ ・スポーツアスリート、チーム、リーグなどの知名度を生かしてプロモーション活動を展開するスポーツスポンサーシップのロジックを学習するとともに、現代社会のスポンサーシップのあり方と今後の方向性について議論する。	配布資料を資料を読み返し、スポーツスポンサーシップについて復習しておく。	4時間
第8回 スポーツ消費者関与 ・人々の情報処理や行動に影響を及ぼすだけでなく、多様化している消費行動を類型化する指標として有効であることが知られているスポーツ消費関与（IP, PCM, スポーツ観戦関与）について学習する。	配布資料を資料を読み返し、スポーツ関与について復習しておく。	4時間
第9回 スポーツ観戦者とスポーツファンの行動と心理（1） ・スポーツ観戦者とスポーツファンは異なる。スポーツファンはある日突然誕生するのではなく、何らかのきっかけや刺激による心理的・行動的変化の結果であることが分かっている。ここではスポーツファンの誕生のメカニズムについて学習する。	配布資料を資料を読み返し、スポーツ観戦者について復習しておく。	4時間
第10回 スポーツ観戦者とスポーツファンの行動と心理（2） スポーツ観戦行動に関する行動変数（デモグラフィック変数・観戦行動変数（エスカレーターモデル、応援チーム、同伴者、移手段、移動時間、交通費、チケット入手）、心理変数（観戦動機・チームアイデンティフィケーション・チームレピュテーション・ファンコミュニティアイデンティティ・地域愛着・選手愛着・スタジアム愛着・試合満足・サービス満足・再観戦意図）について学習する。	配布資料を資料を読み返し、スポーツ観戦者について復習しておく。	4時間
第11回 参加型スポーツのマネジメント ・国民の健康への関心が高まる中、ジョギング、トレーニング、フィットネスなどのような従来型のスポーツ参加に加え、市民マラソンやロードバイクのように、観光やアウトドア活動の側面から新しい形の参加型スポーツも台頭してきている。これらの現状と発展の方向性について議論する。	配布資料を資料を読み返し、参加型スポーツのマネジメントについて復習しておく。	4時間
第12回 するスポーツの消費者の行動と心理 行動的ロイヤリティ、態度的ロイヤリティ、スポーツ参加動機・動機づけ理論（内容理論・過程理論）、コミットメント、知覚価値、知覚評価、事前評価、事業評価、満足度、パーソナリティ特性・ライフスタイル特性について学習する。	配布資料を資料を読み返し、するスポーツの消費者行動と心理について復習しておく。	4時間

第13回	スポーツ施設マネジメント：これまでの変遷 ・今日のスポーツスタジアムを特徴づける大規模施設、エンターテインメント事業、指定管理者制度、ITテクノロジーなどの経営要素とともに、スポーツ施設のマネジメントについて考える。	配布資料を資料を読み返し、スポーツ施設マネジメントについて復習しておく。	4時間
第14回	スポーツ施設マネジメント：第一局面から第二局面へ ・第1局面から第2局面へと発展を遂げた今日のスポーツスタジアムの特徴を、先進的なプロスポーツの事例とともに学ぶ。	配布資料を資料を読み返し、スポーツ施設マネジメントについて復習しておく。	4時間

授業科目名	スポーツマネジメント演習				
担当教員名	山本 達三				
学年・コース等	1	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大阪ガス株式会社におけるトップアスリートのマネジメント及び、上流営業部署におけるスポーツによる健康なまちづくり事業の責任者などの実践経験を講義内容に結びつけている（石井）				

授業概要

スポーツマネジメント研究（マーケティング論、スポンサーシップ、施設イベントマネジメント）の分野において、新しい理論を構築し、その妥当性を検討することのできる研究力を修得する。具体的には、スポーツマネジメントを構成する主要領域の特徴とそれぞれの独自性を理解し説明することができること、スポーツマネジメント研究の発展に向け、新しい知識を提供できる研究トピックを特定することができること、研究方法を、研究のデザイン、尺度、データ収集、統計分析を含め総合的に立てることができることを目指す。マネジメント分野の大学院生が履修した場合は、その学生の研究内容や分析手法に応じた統計内容などに変更して授業を実施する。

養うべき力と到達目標

具体的内容：

1. DP1. スポーツに対する関心・意欲

この項目は使用しません。

目標：

この項目は使用しません。

学外連携学修

無し

授業方法

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合

先行研究のレビュー論文

40 %

研究仮説の構築

40 %

研究計画の策定

20 %

評価の基準

： スポーツマネジメント分野の先行研究に基づいたレビュー論文を作成する。

： スポーツマネジメント分野の先行研究に基づいた研究仮説の構築を行う。

： 先行研究、研究仮説に基づいた研究計画の策定を行う。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

よくわかるスポーツマーケティング（2017）仲澤真，吉田政幸他．ミネルヴァ書房：京都

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日3限

場所： B311

授業計画	学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回 スポーツマネジメント研究とは ・スポーツマネジメントが学問的知識体系として設立された歴史的背景を学習するとともに、スポーツマネジメント研究の独自性についても併せて理解を深める。	配布資料を読み返し、スポーツマネジメント研究の独自性について復習しておく。	4時間
第2回 スポーツマネジメント研究の重要研究課題 ・スポーツマネジメント関連の学会大会や最新の学術論文の研究成果を基に、スポーツマネジメント研究の重要研究課題を特定し、今後の取り組み・方向性について議論する。	配布資料を読み返し、スポーツマネジメント研究の重要研究課題について復習しておく。	4時間
第3回 研究の種類デザイン ・スポーツマネジメント研究の種類を、研究のパラダイム(帰納法と演繹法)、研究の目的(記述、探索、確認、予測)、研究の方法(実験的研究と非実験的研究)に基づいて分類し、それぞれの特徴、違い、メリット/デメリットを理解する。	配布資料を読み返し、スポーツマネジメントの研究デザインについて復習しておく。	4時間
第4回 研究の進め方(1) ・先行研究の問題の特定の仕方を理解するとともに、修士論文の第1章に含まれる緒言、疑問、研究の目的、研究の重要性、研究の範囲に関して、それぞれの内容や違いについても学習する。	配布資料を読み返し、研究の進め方について復習しておく。	4時間
第5回 研究の進め方(2) ・仮説の設定方法について、演繹的なアプローチに基づき、理論的な視座の組み立て方を、社会科学における理論や先行研究の理論的な発見とともに学習する。	配布資料を読み返し、研究の進め方について復習しておく。	4時間
第6回 調査尺度の種類 ・名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比例尺度のそれぞれの特徴を理解するとともに、それらの違い、使い分け、使用上の注意点について学習する。	配布資料を読み返し、調査尺度の種類について復習しておく。	4時間
第7回 概念の定義と質問項目への変換 ・概念の定義とそれを基にした質問項目への変換について学習し、特に消費者心理を計測する場合の観測変数と潜在変数の関係性について理解を深める。	配布資料を読み返し、概念の定義と質問項目について復習しておく。	4時間
第8回 信頼性の検討 ・潜在変数を構成する観測変数の一貫性の検討方法を学習するとともに、併せて他の信頼性分析についても理解を深める。	配布資料を読み返し、信頼性の検討について復習しておく。	4時間
第9回 妥当性の検討 ・妥当性の検討の基本的な考え方を理解するとともに、特に心理変数を検討する場合に必要な(1)翻訳的妥当性と(2)基準関連妥当性の検定方法について詳しく学習する。	配布資料を読み返し、妥当性の検討について復習しておく。	4時間
第10回 仮説の検討 ・科学的な方法で仮説を検証する方法(帰無仮説と対立仮説のロジック)を学ぶとともに、正規分布、信頼区間、有意確率、タイプIエラー、タイプIIエラー、効果量について学習する。	配布資料を読み返し、仮説の検討について復習しておく。	4時間
第11回 統計分析(記述統計、t-検定、相関、回帰分析) ・記述統計(度数分布、平均、標準偏差)と基本的な推計統計(パラメトリック検定、ノンパラメトリック検定、相関、回帰分析)について学習し、実際に統計分析を実施する。	配布資料を読み返し、統計分析(記述統計、パラメトリック検定、ノンパラメトリック検定、相関、回帰分析)について復習しておく。	4時間
第12回 統計分析(探索的・確認的因子分析) ・新しい因子構造の特定と尺度開発を目的とした探索的因子分析の目的、特徴、分析方法、注意点について学習し、実際に統計分析を実施する。 ・仮説に基づいて構成概念の因子構造を検討する確認因子分析の目的、特徴、分析方法、注意点について学習し、実際に統計分析を実施する。	配布資料を読み返し、統計分析(探索的・確認的因子分析)について復習しておく。	4時間
第13回 統計分析(構造方程式) ・複数の要因間の関係性を分析することのできる構造方程式の目的、特徴、分析方法、注意点について学習し、実際に統計分析を実施する。	配布資料を読み返し、統計分析(構造方程式)について復習しておく。	4時間
第14回 考察のまとめ方 ・結果の考察、研究の限界、今後の展望、結論のまとめ方について学習する。	配布資料を読み返し、考察のまとめ方について復習しておく。	4時間

授業科目名	トレーニング科学特論				
担当教員名	佃・禰屋・山田・田中				
学年・コース等	1	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	日本オリンピック・パラリンピック委員会強化スタッフ（水泳、ソフトボール、スケート、パラバスケット他）、韓国Kリーグフィジカルコーチ等、オーストラリア・シンガポール強化指定選手の科学サポートを各教員が担当した。				

授業概要

スポーツ生理学・医学的なアプローチによるトレーニング科学やスポーツ実践の医学的問題を国内外の文献を通して理解し、運動のメカニズム、技術発達、トレーニング効果、スポーツコンディショニングについての知識を獲得する。コーチや指導者として、学習者の運動技能のつまずきや問題点を発見し、改善につながる実践的なトレーニング方法を提示できる能力を獲得する。

- ・最新のスポーツ生理学、トレーニング科学について、高度な専門知識を身につける
- ・科学的知見の限界と現場の課題について、プレゼンテーションにて発表できる

養うべき力と到達目標

具体的内容：

1. DP1. スポーツに対する関心・意欲

この項目は使用しません。

目標：

この項目は使用しません。

学外連携学修

無し

授業方法

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合

レポート

50 %

課題のプレゼンテーション

50 %

評価の基準

： トレーニング科学に関する知見のまとめについて、妥当性と理論構成について、独自のルーブリックに基づいて評価する。

： プレゼンテーションとディスカッションについて、スポーツ現場の課題と目的理論構成について、独自のルーブリックに基づいて評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

資料として、教員が準備する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業教室

授業計画	学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回 トレーニング科学とコンディショニング (田中) 応用科学領域の学問構成について概説し、コンディショニングとコンディショニングの定義などを学習する。	予習復習として、国内におけるトレーニング科学とコンディショニングに関する研究の文献検索および知見の収集を行う	4時間
第2回 コンディショニングの内的要因と外的要因 (田中) 文献・研究論文の読解による高度な専門知識の習得① アスリートのコンディショニングで内的要因に関する研究論文や文献を読解し、高度な専門知識を身につける。	予習復習として、国内におけるトレーニング科学とコンディショニングに関する研究の文献検索および知見の収集を行う	4時間
第3回 現場の課題とコンディショニング評価の有効性 (田中) 文献・研究論文の読解による高度な専門知識の習得③ アスリートのコンディショニングでトレーニング計画に関する研究論文や文献を読解し、高度な専門知識を身につける。	予習復習として、国内におけるトレーニング科学とコンディショニングに関する研究の文献検索および知見の収集を行う	4時間
第4回 発育発達とトレーニング(体力測定を含む) (山田) トレーニングの原則や体力領域の定義に関する知識及び発育発達と体力運動能力テストに関する知識を確認し、それらに関する研究論文や文献を読解することで、高度な専門知識を身につける。	学びのキーワードについて参考文献等により下調べを行い、復習を行う。	4時間
第5回 持久力・スピード・パワートレーニング (山田) 持久力トレーニング・スピード・パワートレーニングに関する知識を確認し、それらに関する研究論文や文献を読解することで、高度な専門知識を身につける。	学びのキーワードについて参考文献等により下調べを行い、復習を行う。	4時間
第6回 コンディショニングの把握と指標 (山田) フィジカルコーチの立場からコンディショニングに関する知識を確認し、それらに関する研究論文や文献を読解することで、高度な専門知識を身につける。	学びのキーワードについて参考文献等により下調べを行い、復習を行う。	4時間
第7回 トレーニングとスポーツ外傷・障害 (佃) 疫学研究に向けた用語の定義、国際的なコード分類について学ぶ	学びのキーワードについて参考文献等により下調べを行い、復習を行う。	4時間
第8回 トレーニングと疾病 (佃) トレーニング・身体活動と健康に関する研究について理解を深める	学びのキーワードについて参考文献等により下調べを行い、復習を行う。	4時間
第9回 トレーニングと予防 (佃) 健康に対するトレーニングは、何をどのくらい予防することができるのか？課される資料を基にディスカッションを行う	学びのキーワードについて参考文献等により下調べを行い、復習を行う。	4時間
第10回 トレーニングの弊害 (佃) トレーニングに伴うリスクとリスクマネジメントを学ぶ	学びのキーワードについて参考文献等により下調べを行い、復習を行う。	4時間
第11回 文献・研究論文の読解による高度な専門知識の習得1 (齋屋) 運動生理学の観点から運動パフォーマンスを評価した論文を読み、自身の研究に必要な測定方法や解析方法の検討を行う(論文は担当教員が準備する)	今回読んだ論文を再度確認して重要点をまとめておくこと。また、次回の授業で用いる次の論文を検索して、選択しておくこと。	4時間
第12回 文献・研究論文の読解による高度な専門知識の習得2 (齋屋) 運動生理学の観点から運動パフォーマンスを評価した論文を読み、自身の研究に必要な測定方法や解析方法の検討を行う(大学院生が検索して選択した論文を用いる)	今回読んだ論文を再度確認して重要点をまとめておくこと。また、次回の授業で用いる次の論文を検索して、選択しておくこと。	4時間
第13回 文献・研究論文の抄読による自身の研究への応用 (齋屋) 全2回の文献・研究論文読解および、時間外での読解によって得られた知見を自身の修士論文作成のための研究にどのように応用していくかを考察する。次回のプレゼンテーション作成のための準備を行う	次回のプレゼンテーションの準備を行うこと	4時間
第14回 文献・研究論文の抄読による自身の研究への応用についてプレゼンテーション (齋屋) 前回準備したプレゼンテーションを実施し、今後の研究計画についての議論を行う。	プレゼンテーション時に得られた提案等を今後の研究にどのように活用するか検討すること	4時間

授業科目名	トレーニング科学演習				
担当教員名	佃・禰屋・山田・田中				
学年・コース等	1	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	日本オリンピック・パラリンピック委員会強化スタッフ（水泳、ソフトボール、スケート、パラバスケット他）、韓国Kリーグフィジカルコーチ等、オーストラリア・シンガポール強化指定選手の科学サポート。				

授業概要

スポーツ生理学的・トレーニング科学的な修士論文を作成する上で必要な研究計画や研究方法について、国内外の文献を通して理解する。パフォーマンスやコンディショニングに関するデータの収集、分析と評価に参加し、医科学的データをスポーツフィールドへ還元できる実践力を身に付ける。データの収集とフィードバックにあたっては、医科学的データを有効に使用方法についての検討も行う。

- ・基本的な測定方法や評価方法を身につける
- ・データの収集、分析と評価の実施についてプレゼンテーションおよびディスカッションできる

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1. DP2. 知識・技能	この項目は使用しません	この項目は使用しません
2. DP3. 思考・判断・表現	この項目は使用しません	この項目は使用しません

学外連携学修

無し

授業方法

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
課題レポート	： 取り組んだ評価方法に関する内容と評価の課題について、妥当性と理論構成について、独自のルーブリックに基づいて評価する。
50 %	
プレゼンテーション	： 実践的評価法の概説と分析結果の理解について、妥当性とわかりやすさについて、独自のルーブリックに基づいて評価する。
50 %	

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

資料として、教員が準備する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

授業計画

学修課題

授業外学修課題にか
かる目安の時間

第1回	コンディショニングの評価法と研究計画の立案 (佃) これまでスポーツ現場で用いられてきた評価方法を整理し、新たなコンディショニング指標を探索する。主に文献検索や資料収集から、研究計画に用いるコンディショニングの評価方法の検討を行う。	これまでスポーツ現場で用いられてきた評価方法を予習する。また新たなコンディショニング評価方法についてまとめる	4時間
第2回	コンディショニングの評価法と実験方法の理解 (佃) これまでスポーツ現場で用いられてきた評価方法を整理し、新たなコンディショニング指標を探索する。主に文献検索や資料収集から、研究計画に用いるコンディショニングの実験方法の検討を行う。	新たなコンディショニング評価方法についてまとめる	4時間
第3回	現場で求められるコンディショニング課題についてインタビューする (佃) スポーツフィールドに出向き、過去に使用されたコンディショニング評価法の測定評価を試みると共に、現場のコーチやスポーツドクター等にインタビューし、現場で求められるトレーナーの役割と関与の具体的方法について理解する。	現場で実施された評価項目を抽出できるようにインタビューを準備する	4時間
第4回	現場におけるコンディショニング評価のプレゼンテーションと討議・まとめ (佃) 評価方法の妥当性と、実際に行った評価の有効性についてプレゼンテーションを行い、討議を行う。また最終的な評価報告書を作成する。	現場にフィードバックするための資料を作成する	4時間
第5回	トレーニングに関する縦断的研究計画、実験方法の理解 (山田) トレーニング刺激を用いた介入を含む縦断的実験計画の知識を習得し、関連研究論文や文献を読解するなかで、研究を進める上での研究計画の立案、実験方法を理解する。また、統計解析手法について理解する。	学びのキーワードについて参考文献や研究論文等で下調べを行い、復習を行う。	4時間
第6回	体カテストに関する研究計画、実験方法の理解 (山田) 体カテストを用いた実験研究計画の知識を習得し、関連研究論文や文献を読解するなかで、研究を進める上での研究計画の立案、実験方法を理解する。また、統計解析手法について理解する。	学びのキーワードについて参考文献や研究論文等で下調べを行い、復習を行う。	4時間
第7回	球技を対象とした運動やスポーツに関する実験方法の理解① (山田) 球技を対象としたゲームパフォーマンス分析の研究計画の知識を習得し、関連研究論文や文献を読解するなかで、研究を進める上での研究計画の立案、実験方法を理解する。また、統計解析手法について理解する。 他者評価を用いたスポーツ技能に関する実験方法の理解② (山田) 他者評価を用いた個人のスポーツ技能や球技などの集団のスポーツ技能に関する研究計画の知識を習得し、関連研究論文や文献を読解するなかで、研究を進める上での研究計画の立案、実験方法を理解する。また、統計解析手法について理解する。	学びのキーワードについて参考文献や研究論文等で下調べを行い、復習を行う。	4時間
第8回	傷害予防のための評価・改善方法の理解 (田中) 傷害予防に必要な評価法および改善法に関する研究論文を抄読し、最新の知見を理解する。	自身の専門種目ではどうか、文献を検索して読む。	4時間
第9回	傷害予防のための評価計画と立案 (田中) 傷害予防のための評価法を実践し、改善に向けたトレーニング計画を立案する。	実現可能かどうかについて、自身でトレーニングを実践する。	4時間
第10回	傷害予防のための評価・改善方法の研究計画 (田中) 傷害を予防するための研究を進める際に必要な研究計画、実験方法を理解する。	傷害予防のための研究を進める上で注意すべき点についてまとめる。	4時間
第11回	競技スポーツパフォーマンスの評価方法の理解 (禰屋) 競技スポーツのパフォーマンス評価として生理学的あるいはバイオメカニクスの側面からの評価法に関する研究論文を抄読し、最新の知見を理解する (1回目) 競技スポーツのパフォーマンス評価として生理学的あるいはバイオメカニクスの側面からの評価法に関する研究論文を抄読し、最新の知見を理解する (2回目) 競技スポーツのパフォーマンス評価として生理学的あるいはバイオメカニクスの側面からの評価法に関する研究論文を抄読し、最新の知見を理解する (3回目)	授業で用いた論文を再度確認して、重要点をまとめておくこと。	4時間
第14回	競技パフォーマンス向上のためのリハビリやコンディショニングの実践方法の理解 (禰屋) 競技パフォーマンス向上のためのリハビリやコンディショニングに関する研究論文を抄読し、最新の知見を理解する	授業で用いた論文を再度確認して、重要点をまとめておくこと。	4時間

授業科目名	コーチング特論				
担当教員名	渋谷俊浩・吉川文人・林弘典・北村哲				
学年・コース等	1	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	渋谷俊浩：日本スポーツ協会上級コーチ（第1～3回） 林 弘典：全日本女子柔道強化コーチ（2005～2008年）（第8～11回） 以上の実践経験を講義内容に結びつけている。				

授業概要

我国の国際競技力を向上させるためには、競技の普及、アスリートの強化・育成はもとより、優れたコーチの養成が急務とされている。本授業では集団・個人競技におけるコーチ・コーチングに関する研究内容や方法について理解するとともに、それぞれの競技力向上に関する理論と知識を獲得する。

到達目標

- ①アスリート個々の発育発達・チームの目標・競技レベルに応じた適切なコーチングが実践できるようになる。
②勝つためのコーチングを実践できるようになる。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1. DP2. 知識・技能	コーチングの応用・発展的理論の理解	各教員のコーチングを理解し、それらの根拠となる多様なコーチング理論を習得する。
2. DP3. 思考・判断・表現	コーチングの実践力の養成	各教員のコーチングを理解したうえで、自身のコーチングをスポーツ現場で実践する。

学外連携学修

無し

授業方法

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

4つのセクションの課題それぞれに、積極的に取り組んでください。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

課題①	：	第1回から第3回の授業内容の理解度に関する課題の完成度について5段階で評価する。
	20 %	
課題②	：	第4回から第7回の授業内容の理解度に関する課題の完成度について5段階で評価する。
	30 %	
課題③	：	第8回から第11回の授業内容の理解度に関する課題の完成度について5段階で評価する。
	30 %	
課題④	：	第12回から第14回の授業内容の理解度に関する課題の完成度について5段階で評価する。
	20 %	

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

1. スポーツ学のすすめ：びわこ成蹊スポーツ大学編（大修館書店）
2. 競技力向上のトレーニング戦略：テューダー・ボンバ、尾縣貢・青山清英監訳（大修館書店）
3. スポーツの戦術入門：ヤーン・ケルン、朝岡正雄・水上一・中川昭監訳（大修館書店）
4. スポーツ・コーチ学：嶋田出雲（不昧堂）
5. 「ショーシャンクの空に」(DVD)

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。コーチングの理論は実践してこそ意味のあるものである。各セクションで学修した理論を自分の心身をもって理解し、スポーツ現場での実践を試みることを。参考：向上のプロセス「知る」⇒「わかる」⇒「できる」

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： オフィスアワー

場所： 研究室

備考・注意事項： 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をしてください。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 課題と目標の理解（渋谷俊浩） ・学習課題および目標を確認し、先行研究・参考文献等を探索する。 ・アスリートの競技力向上を目指し、競技力の構成要素とコーチ・コーチングに関する基礎的な理論を学修する。	先行研究・参考文献の要約集を作成する。	4時間
第2回 コーチング計画の実践：コーチング計画を立案するために必要な基礎理論の理解（渋谷俊浩） ・学習課題および目標を確認し、先行研究・参考文献等を探索する。 ・アスリートの競技力向上を目指し、競技力の構成要素とコーチ・コーチングに関する基礎的な理論と知識を活用しながら、スポーツ現場でのコーチングの実践を通して、本学独自のアスリート育成プログラムを立案する。	実践結果をノートにまとめ、国内外のアスリート育成プログラムについて調べる。	4時間
第3回 コーチング計画の立案・発表（渋谷俊浩） ・学習課題および目標を確認し、先行研究・参考文献等を探索する。 ・アスリートの競技力向上を目指し、競技力の構成要素とコーチ・コーチングに関する基礎的な理論と知識を活用しながら、スポーツ現場でのコーチングの実践を通して、本学独自のアスリート育成プログラムを立案する。 ・スポーツ現場で実践するコーチング計画書を発表し、そのコーチングの意義・有効性などについてディスカッションする。	ディスカッションで受けたアドバイス・意見をふまえてコーチング計画を策定し、実践する。	4時間
第4回 情報通信技術の応用例とコーチング（吉川文人） ・スポーツ競技の強化に資することを意図して開発された情報通信技術とその応用例について概観し、センサー技術を用いてスポーツ競技の事象を客観的に捕捉しようとする研究の動向について学びを深める。	情報通信技術の開発事例や応用例の文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。	4時間
第5回 動作分析技術の応用例とコーチング（吉川文人） ・スポーツ競技の強化に資することを意図して開発された動作分析技術とその応用例について概観し、その動作分析技術を用いてスポーツ競技の事象を客観的に捕捉しようとする研究の動向について学びを深める。	動作分析技術の開発事例や応用例の文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。	4時間
第6回 ゲーム&パフォーマンス分析事例とコーチング（吉川文人） ・ゲーム及びパフォーマンス分析研究について概観し、パフォーマンス指標にかかるデータの処理方法について学びを深める。コーチングにおける付加的情報の活用方法について議論する。	ゲーム及びパフォーマンス分析研究の文献調査を行ない、関心のあるスポーツ競技のパフォーマンス指標とそのデータの処理方法についてまとめる。	4時間
第7回 コーチングの評価・改善過程（吉川文人） ・コーチングの評価・改善プロセスにおいて実行される具体的なコーチング行動について、実践的な事例報告や研究論文から得られた知見を概観するとともに、コーチングの評価・改善過程に関する問題点を把握し、新たな課題・改善点を抽出する。	関心のあるスポーツ競技のコーチングの評価・改善プロセスについて自らの考えをまとめる。	4時間
第8回 コーチングの本質について（1）（林 弘典） 「ショーシャンクの空に（前編90分）」を視聴し、コーチングの本質について学習する。	「ショーシャンクの空に」について調べる。また、次の授業で疑問点を質問する。	4時間
第9回 コーチングの本質について（2）（林 弘典） 「ショーシャンクの空に（後編52分）」を視聴し、コーチングの本質についてレポートを作成して学習する。	人間の本質について考えをまとめる。また、次の授業で疑問点を質問する。	4時間
第10回 コーチングの本質について（3）（林 弘典）	「ショーシャンクの空に（後編52分）」を視聴する。更生（反省）する本当の意味について考えをまとめる。また、次の授業で疑問点を質問する。	4時間

	「ショーシャンクの空に」を視聴して作成したコーチングの本質に関するレポートについて議論することによって学習する。		
第11回	コーチングの本質について (4) (林 弘典) かんさい熱視線「極めて なお磨く一剣道八段・最高峰の戦い」を視聴し、コーチングの本質について学習する。	自分と向き合う意味について考える。また、次の授業で疑問点を質問する。	4時間
第12回	選手への言葉のかけ方 (北村哲) ・選手への動機付けについて、多くの事例を参考にしながら、言葉のかけ方の狙いや効果について整理する。	普段のコーチング活動における発話について記録する。	4時間
第13回	選手の自発性を促すコーチング (北村哲) ・昨今目標とされる自律・自立し、主体的に行動する選手を育成するためのコーチングについて議論する。	昨今目標とされる自律・自立し、主体的に行動する選手を育成するためのコーチングについて議論する。	4時間
第14回	コーチングにおけるダブルゴールについて (北村哲) ・昨今コーチングの目標とうたわれる、①人間性の育成および②競技能力の向上といったダブルゴールを目標としたコーチングについて議論し、指導者の立場から理想的なアスリートのキャリアについて考える。	ダブルゴールについて調査し、予め理解するとともに普段のコーチング活動について振り返る。	4時間

授業科目名	コーチング演習				
担当教員名	渋谷俊浩・吉川文人・林弘典・北村哲				
学年・コース等	1	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	渋谷俊浩：日本スポーツ協会上級コーチ（第12～14回） 林 弘典：全日本女子柔道強化コーチ（2005～2008年）（第8～11回） 以上の実践経験を講義内容に結びつけている。				

授業概要

我国の国際競技力を向上させるためには、競技の普及、アスリートの強化・育成はもとより、優れたコーチの養成が急務である。本授業では、コーチングに関連する課題や問題を概観するとともに、それらに関する研究の内容や方法を理解することに加え、アスリート個々および競技の特性を踏まえたコーチングとその実践例についても理解を深める。

到達目標

- ①各々の課題を設定し、コーチング計画を立案できるようになる。
②コーチングのプロセス（実践⇒改善点抽出⇒修正⇒実践）を経て、自身のスキルを向上させることができる。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1. DP2. 知識・技能	コーチングの応用・発展的理論の理解	各教員のコーチングを理解しそれらの根拠となる多様なコーチング理論を習得する。
2. DP3. 思考・判断・表現	コーチングの実践力の養成	各教員のコーチングを理解したうえで、自身のコーチングをスポーツ現場で実践する。

学外連携学修

無し

授業方法

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

4つのセクションそれぞれの課題に、積極的に取り組んでください。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

レポート及びプレゼンテーション	20 %	： 第1回から第3回の授業内容の理解度に関する課題（レポート等）について5段階で評価する。
発表	30 %	： 第4回から7回の授業において、発表の質疑応答における妥当性や論理性について5段階で評価する。
レポート	30 %	： 第8回から第11回の授業内容の理解度に関する課題（レポート等）について5段階で評価する。
レポート及びプレゼンテーション	20 %	： 第12回から第14回の授業内容の理解度に関する課題（レポート及びプレゼンテーション）について5段階で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

1. 身体活動科学における研究方法：ジェリー・トーマス、ジャック・ネルソン、田中喜代次・西嶋尚彦監訳（NAP Limited）
2. 健康・スポーツ科学のための研究方法：出村慎一（杏林書院）
3. 研究のテーマまたは専門種目などに応じて、その都度紹介する。（各競技団体テクニカルレポート等）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。コーチングの理論は実践してこそ意味のあるものである。各セクションで学修した理論を自分の心身をもって理解し、スポーツ現場での実践を試みる。参考：向上のプロセス「知る」⇒「わかる」⇒「できる」

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： オフィスアワー

場所： 研究室

備考・注意事項： 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をしてください。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 コーチング学研究の概観（吉川文人） ・授業の進め方について把握する。 ・一般的なコーチングの役割や行動を踏まえ、スポーツ科学の細分野のなかでも、特にコーチング学と関連の深い学問体系について概観する。 ・コーチング学の研究動向を概観し、コーチングにおける課題や問題点について議論する。 ・コーチング特論において取り上げられた諸種の知見を活用しながら、アスリートの競技力向上に資する研究とは何かを議論する。	コーチングに関連する概念をテーマとしてマインドマップを作成する。	4時間
第2回 コーチング事例研究の概観（吉川文人） ・コーチングに関連した研究活動事例について概観し、その中で取り扱われている問題点や課題について議論する。	関心のあるスポーツ競技におけるコーチングの事例研究について文献調査を行ない、自らの考えをまとめる。	4時間
第3回 ビッグデータのコーチング応用（吉川文人） ・ビッグデータを取り扱う情報通信技術や情報処理技術を概観し、コーチング及びコーチング学の展望について議論する。	ビッグデータを活用できることを前提としたコーチングの将来像について自らの考えをまとめる。	4時間
第4回 コーチングに必要な論理的な思考の重要性について（1）（林 弘典） 卒業研究の発表と質疑応答を通して、コーチングに必要な論理的な思考の重要性について学習する。	卒業研究で発表したプレゼンテーションを見返す。また、次の授業で疑問点を質問する。	4時間
第5回 コーチングに必要な論理的な思考の重要性について（2）（林 弘典） 科学論文とは何かについて学習する。また、研究の目的と方法を明確にすることとコーチングに必要な論理的な思考の関係性や重要性について学習する。	研究（科学論文）とは何かについて調べる。また、次の授業で疑問点を質問する。	4時間
第6回 コーチングに必要な論理的な思考の重要性について（3）（林 弘典） 修士論文の研究計画書における目的と方法の明確さについて検討し、コーチングに必要な論理的な思考の重要性について学習する。	修士論文の研究計画書を説明できるようにする。また、次の授業で疑問点を質問する。	4時間
第7回 コーチングに必要な論理的な思考の重要性について（4）（林 弘典） 外部の研究補助金を獲得した研究計画書を見てコーチングに必要な論理的な思考力の重要性について学習する。	第5～7回までの授業を振り返り、目的と方法の明確さの重要性について復習する。また、次の授業で疑問点を質問する。	4時間
第8回 個人競技種目のコーチング トップコーチのコーチング事例について①（北村 哲） ・個人競技種目（アマチュア、オリンピックスポーツ）のトップコーチのコーチング事例を題材に、コーチングのエッセンスについてディスカッションすることで、コーチングにおける実践的知見を学ぶ。	日々のコーチング活動について記録および省察する。	4時間
第9回 個人競技種目のコーチング トップコーチのコーチング事例について②（北村 哲） ・個人競技種目（プロスポーツ）のトップコーチのコーチング事例を題材に、コーチングのエッセンスについてディスカッションすることで、コーチングにおける実践的知見を学ぶ。	日々のコーチング活動について授業内容と比較しながら省察する。	4時間
第10回 コーチング活動の省察①（北村 哲） ・日々のコーチング活動の記録を元に、自身のコーチングについて省察する。また、第9回、10回の講義内容を踏まえながら各受講生のコーチング行動の良い点、現在抱えている難しさ等についてディスカッションを行う。その中で自身の指導の改善点等を見出し、実践的スキルの向上を図る。	これまでの授業内容を活用し、日々のコーチング活動について記録の仕方について工夫し、省察する。	4時間
第11回 コーチング活動の省察②（北村 哲）	日々のコーチング活動について理想的な記録の仕方および省察の仕方を実践する。	4時間

	<ul style="list-style-type: none"> ・第11回の講義で得られた知見を実践した結果について、ディスカッションを行う。省察およびディスカッションのようなコーチング活動の評価が自身のコーチング行動にどのような変容を及ぼすかを議論することで、PDCAサイクルの実践やコーチング行動の省察の重要性に学ぶ。 		
第12回	コーチング計画の立案 (渋谷俊浩) <ul style="list-style-type: none"> ・コーチングに関する各自の課題についての研究成果を取りまとめ、自身のコーチング計画を検討・立案する。On the job trainingを通して、実践力を培う。 	計画に沿ってコーチングを実践し、コーチング日誌を作成する。	4時間
第13回	コーチングの実践 (渋谷俊浩) <ul style="list-style-type: none"> ・各自のコーチングについて、修正・改善を含めてさらに検討を加え、より適切なコーチングに取り組む。On the job trainingを通して、実践力を培う。 	計画に沿ってコーチングを実践し、コーチング日誌を作成し、発表の準備をする。	4時間
第14回	まとめ：自身のコーチングの振り返り (渋谷俊浩) <ul style="list-style-type: none"> ・各自のコーチングの実践結果をまとめ、コーチングの実践について理解した内容を発表する。 ・レポートや根拠資料等に基づき、今回実践したコーチングを評価する。また、第1学年で学習した内容をふまえ、次年度の修士論文（あるいは課題研究）についてのビジョンを持つ。 ・アスリートの競技力向上に寄与する優れたコーチングについてディスカッションする。 	教員や他者からのアドバイス・意見をふまえ、自身のコーチングポリシーを確立する。	4時間

授業科目名	スポーツ栄養特論				
担当教員名	武田 哲子				
学年・コース等	1	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	日本セーリング連盟管理栄養士（2012年ロンドン五輪、2016年リオ五輪帯同）（全15回）				

授業概要

スポーツに関する栄養学・生化学・生理学の知識を基に、コンディショニングに不可欠な食事および栄養面からのアプローチの理論と実践について修得することを目的とする。本特論では、国内・国外の最新のスポーツ栄養に関する文献を用い、専門知識および研究方法を学ぶとともに、スポーツ現場での実践のための課題を探る。

到達目標

- ・スポーツの現場において起こりうる栄養学的観点からの課題を理解し、その解決のための知識を習得する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1. DP1. スポーツに対する関心・意欲	国内・国外の最新のスポーツ栄養に関する文献を抄読し、ディスカッションする。	専門知識および研究方法を学ぶ。
2. DP2. 知識・技能	文献から、スポーツ栄養の分野における調査方法、実験方法を学ぶ	調査方法や実験方法を理解し、研究に活用できるようになる

学外連携学修

無し

授業方法

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
課題の取り組み状況	： 課題の理解度，適切な情報処理について評価する
40 %	
課題プレゼンテーション	： 論理的な説明，分かりやすさについて評価する
40 %	
レポート	： 栄養学的観点から課題を理解し，論理的な思考に基づいて独自の考察を含んだレポートが作成できるかについて評価する
20 %	

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

授業計画

学修課題

授業外学修課題にかかる目安の時間

第1回	スポーツ栄養に関する研究についての概説 最近の研究成果について紹介しながら学習課題や到達目標を提示し、この授業での達成目標を確認する。	各専門競技におけるスポーツ栄養に関する情報検索	4時間
第2回	アスリートにおける栄養問題の探索 各専門競技における最近の栄養学の問題についての知見を探索する。	各専門競技におけるスポーツ栄養に関する情報検索	4時間
第3回	アスリートにおける栄養問題に関する知見の理解 各専門競技における栄養学の問題・解決すべき課題を理解する。	各専門競技におけるスポーツ栄養に関する情報検索	4時間
第4回	アスリートにおける栄養問題に関する知見のプレゼンテーション準備 各専門競技における栄養学の問題・解決すべき課題をわかりやすくプレゼンテーションするための準備を行う。	各専門競技におけるスポーツ栄養に関する情報検索	4時間
第5回	アスリートにおける栄養問題に関する知見の紹介 各専門競技における栄養学の問題・解決すべき課題を明確にし発表する。	各専門競技におけるスポーツ栄養に関する情報検索	4時間
第6回	アスリートにおける栄養問題に関する知見についてのディスカッション 各専門競技における栄養学の問題・解決すべき課題についての発表を聴き、お互いの意見を発表しながら理解を深める。	各専門競技におけるスポーツ栄養に関する情報検索	4時間
第7回	アスリートとしての食事計画 各自問題視したテーマに関する食事計画を立案する。	テーマに関する予習をしておく。	4時間
第8回	アスリートとしての食事管理 食事計画を評価する方法（栄養価計算）について解説する。	栄養価計算についての知識を復習する。	4時間
第9回	アスリートとしての食事の評価 栄養価計算を実践する。	各自立案した食事計画について再評価する。	4時間
第10回	アスリートとしての食事管理の実践 立案した食事計画を実践（調理実習）する。	調理実習のための予習をしておく。	4時間
第11回	アスリートとしての食事管理の実践の振り返り 立案した食事計画および実践した献立を振り返り全体的な評価を行う。	調理実習のための予習をしておく。	4時間
第12回	アスリートにおける栄養問題に関する論文抄読 アスリートの栄養に関する課題に対する研究手法について学ぶ。	発表資料を準備し、紹介されたキーワードについて復習する。	4時間
第13回	アスリートにおける栄養問題に関する論文抄読とプレゼンテーション資料作り アスリートの栄養に関する課題に対する研究手法について学び、発表するための資料を作成する。	発表資料を準備し、紹介されたキーワードについて復習する。	4時間
第14回	アスリートにおける栄養問題に関する論文のプレゼンテーションおよびディスカッション アスリートの栄養に関する課題に対する研究手法・課題について整理し発表、意見交換を行い考察を深める。	発表資料を準備し、紹介されたキーワードについて復習する。	4時間

授業科目名	スポーツ栄養演習				
担当教員名	武田 哲子				
学年・コース等	1	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	日本セーリング連盟管理栄養士（2012年ロンドン五輪、2016年リオ五輪帯同）。（全15回）				

授業概要

修士論文の作成に必要な仮説の設定のための論理的思考をトレーニングするために、スポーツ現場における栄養に関する課題の設定を行い、文献調査およびディスカッションを通して研究計画を立て遂行する力を身につけることを目的とする。

到達目標

- ・課題を論理的に整理し、仮説設定することができる。
- ・研究遂行に必要な生化学、生理学実験による評価法を理解する。
- ・スポーツ栄養学研究に用いる研究手法を習得する。
- ・自ら仮説を立て、修士論文のための予備的研究に発展する研究計画を作成し、実践する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1. DP3. 思考・判断・表現	スポーツ栄養に関する研究を遂行するための研究手法を身につける	関連する文献を理解し、自身の研究に必要な手法を選択できるようになる
2. DP2. 知識・技能	文献調査およびそのプレゼンテーションを行う	スポーツ栄養学研究に用いる研究手法を習得し、研究計画の立案ができるようになる

学外連携学修

無し

授業方法

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合

課題の取り組み状況

40 %

課題発表

40 %

レポート

20 %

評価の基準

： 課題の理解、適切な情報処理および文献検索ができていないかを評価する

： 論理的な説明、分かりやすさについて評価する。

： 課題に対して論理的に説明し、独自の考察を踏まえた文章が作成できているかを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にか かかる目安の時間
第1回 スポーツ栄養の研究および実践についての概説 本授業の到達目標を理解し、課題を設定する。	スポーツ栄養の現状について知見を調査しておく。	4時間
第2回 課題の整理 スポーツ現場における栄養に関する課題の整理を行い、本授業で扱うテーマを設定する。	スポーツ栄養の現状について知見を調査しておく。	4時間
第3回 アスリートの身体組成に関する知見の探索、プレゼンテーション資料の準備 文献の探索、抄読し発表資料を作成する。	文献発表の準備を行う。また、発表されたテーマについて復習する。	4時間
第4回 アスリートの身体組成に関する知見の紹介、ディスカッション 文献紹介、ディスカッションを通して知見を深める。	文献発表の準備を行う。また、発表されたテーマについて復習する。	4時間
第5回 糖代謝に関する知見の探索、プレゼンテーション資料の準備 文献の探索、抄読し発表資料を作成する。	文献発表の準備を行う。また、発表されたテーマについて復習する。	4時間
第6回 糖代謝に関する知見の紹介、ディスカッション 文献紹介、ディスカッションを通して知見を深める。	文献発表の準備を行う。また、発表されたテーマについて復習する。	4時間
第7回 脂質代謝に関する知見の探索、プレゼンテーション資料の準備 文献の探索、抄読し発表資料を作成する。	文献発表の準備を行う。また、発表されたテーマについて復習する。	4時間
第8回 脂質代謝に関する知見の紹介、ディスカッション 文献紹介、ディスカッションを通して知見を深める。	文献発表の準備を行う。また、発表されたテーマについて復習する。	4時間
第9回 アスリートのコンディショニングに関する知見の探索、プレゼンテーション資料の準備 文献の探索、抄読し発表資料を作成する。	文献発表の準備を行う。また、発表されたテーマについて復習する。	4時間
第10回 アスリートのコンディショニングに関する知見の紹介、ディスカッション 文献紹介、ディスカッションを通して知見を深める。	文献発表の準備を行う。また、発表されたテーマについて復習する。	4時間
第11回 スポーツサプリメントに関する知見の探索、プレゼンテーション資料の準備 文献の探索、抄読し発表資料を作成する。	文献発表の準備を行う。また、発表されたテーマについて復習する。	4時間
第12回 スポーツサプリメントに関する知見の紹介、ディスカッション 文献紹介、ディスカッションを通して知見を深める。	文献発表の準備を行う。また、発表されたテーマについて復習する。	4時間
第13回 アスリートの栄養教育に関する知見の探索、プレゼンテーション資料の準備 文献の探索、抄読し発表資料を作成する。	文献発表の準備を行う。また、発表されたテーマについて復習する。	4時間
第14回 アスリートの栄養教育に関する知見の紹介、ディスカッション 文献紹介、ディスカッションを通して知見を深める。	文献発表の準備を行う。また、発表されたテーマについて復習する。	4時間

授業科目名	スポーツ心理特論				
担当教員名	豊田 則成				
学年・コース等	1	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、スポーツ心理学分野における最新の研究トピックと研究方法を概観し、国内外における研究動向を把握する。毎回の授業では、各自が熟読した文献について発表資料をまとめ、プレゼンテーションを行い、質疑応答を行う。それは、今後の研究活動に寄与するような文献研究として位置付けられる。

達成目標

- 1) スポーツ心理学領域における国内外の最新の研究トピックと研究方法を熟知する
- 2) 文献研究としての資料作りができる
- 3) 発表資料を丁寧に説明し、分かりやすく発表できる

養うべき力と到達目標

具体的内容：

1. DP1. スポーツに対する関心・意欲

この項目は使用しません。

目標：

この項目は使用しません。

学外連携学修

無し

授業方法

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合

発表資料

50 %

プレゼンテーション

50 %

評価の基準

： スポーツ心理学分野における最新の研究論文についての発表資料を評価する。1) 選定した論文の内容を的確に発表資料に反映しているか、2) 小項目を立て、分かりやすい資料作成ができていないか。

： 毎回の授業で、発表資料を活用したプレゼンテーションを行い、これを評価する。1) 発表資料をわかりやすく発表できているか、2) 質疑応答に適切に対応できているか。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

生涯スポーツの心理学(福村出版)、よくわかるスポーツ心理学(ミネルヴァ出版)、スポーツ心理学 その軌跡と展望(大修館書店)、ジュニアスポーツの心理学(大修館書店)、スポーツ心理学ハンドブック(実務教育出版)、スポーツ心理学大事典(西村書店)その他、必要に応じて、資料・文献等を配布する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であることから、毎回、「授業外学修課題」として、スポーツ心理学領域における国内外の最新の研究トピックと研究方法を熟知することを目指し、平均すると毎回4時間以上の授業外学修が求められる。

従って、毎回の授業に備えて、予めスポーツ心理学領域における国内外の最新の研究論文を熟読し、これについてのレジュメを作成し、発表する準備を行う。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 随時

場所： A407

備考・注意事項： アポイントをとりたい場合は、toyoda-n@bss.ac.jp宛てに送信すること。
特に、E-Mailの「件名」には「学籍番号」と「氏名」を記入し、「本文」の一行目には「本授業名」を、二行目以降には「問合せ事項」を簡潔に記入すること。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 オリエンテーション：本授業の目標とスケジュールの説明 ・段階的な学習目標を説明し、参考図書や参考文献を紹介し、グループ学習のグループ編成する。 ・スポーツ心理学の軌跡と今後の展望を行う。	また、スポーツ心理学分野における最新の研究トピックと研究論文を検索し、熟読し、予習しておく。	4時間
第2回 スポーツ心理学分野における最新の研究トピックと研究方法を概観し、国内外における研究動向を把握する ・先行研究の概観（資料収集の仕方、まとめ方、報告書の書き方など）する。 ・質疑応答を受け、適切に回答する。	授業の内容を踏まえ、ノートにまとめておく和良好的。また、スポーツ心理学分野における最新の研究トピックと研究論文を検索し、熟読し、資料作成しておく。	4時間
第3回 運動学習理論の概観と今後の展望 ・スポーツスキルの獲得メカニズムについての先行研究を概観（資料収集の仕方、まとめ方、報告書の書き方など）する。 ・質疑応答を受け、適切に回答する。	授業の内容を踏まえ、ノートにまとめておく和良好的。また、スポーツ心理学分野における最新の研究トピックと研究論文を検索し、熟読し、資料作成しておく。	4時間
第4回 効果的な運動学習の方法 ・反復練習の工夫とその効果、全習法と分習法（効果的な練習メニューの立て方）、・ビッグマリオン効果の実態などについての先行研究を概観（資料収集の仕方、まとめ方、報告書の書き方など）する。 ・質疑応答を受け、適切に回答する。	授業の内容を踏まえ、ノートにまとめておく和良好的。また、スポーツ心理学分野における最新の研究トピックと研究論文を検索し、熟読し、資料作成しておく。	4時間
第5回 あがりの症候とその対策 ・あがりの発生機序の質的検討やあがりに対する心理学的対処法などについての先行研究を概観（資料収集の仕方、まとめ方、報告書の書き方など）する。 ・質疑応答を受け、適切に回答する。	授業の内容を踏まえ、ノートにまとめておく和良好的。また、スポーツ心理学分野における最新の研究トピックと研究論文を検索し、熟読し、資料作成しておく。	4時間
第6回 怪我への心理的アプローチ ・スポーツ傷害に伴う選手の心理的問題の同定、スポーツ傷害発症から現場復帰へのプロセスに見られる心理変容、スポーツ傷害への心理的サポートなどについての先行研究を概観（資料収集の仕方、まとめ方、報告書の書き方など）する。 ・質疑応答を受け、適切に回答する。	授業の内容を踏まえ、ノートにまとめておく和良好的。また、スポーツ心理学分野における最新の研究トピックと研究論文を検索し、熟読し、資料作成しておく。	4時間
第7回 バーンアウト症候群への介入 ・スポーツ領域におけるバーンアウトの実態、バーンアウトの発生機序、バーンアウトへの対処方略などについての先行研究を概観（資料収集の仕方、まとめ方、報告書の書き方など）する。 ・質疑応答を受け、適切に回答する。	授業の内容を踏まえ、ノートにまとめておく和良好的。また、スポーツ心理学分野における最新の研究トピックと研究論文を検索し、熟読し、資料作成しておく。	4時間
第8回 目標設定と動機づけ ・目標設定の方法と動機づけの関係、効果的な目標設定の方法とその評価などについての先行研究を概観（資料収集の仕方、まとめ方、報告書の書き方など）する。 ・質疑応答を受け、適切に回答する。	授業の内容を踏まえ、ノートにまとめておく和良好的。また、スポーツ心理学分野における最新の研究トピックと研究論文を検索し、熟読し、資料作成しておく。	4時間
第9回 スポーツメンタルトレーニング ・スポーツメンタルトレーニングの歴史と理論的基礎、心理スキルトレーニング、スポーツフィールドでのスポーツメンタルトレーニングの効果などについての先行研究を概観（資料収集の仕方、まとめ方、報告書の書き方など）する。 ・質疑応答を受け、適切に回答する。	授業の内容を踏まえ、ノートにまとめておく和良好的。また、スポーツ心理学分野における最新の研究トピックと研究論文を検索し、熟読し、資料作成しておく。	4時間
第10回 運動好きと運動嫌い ・運動を好きにさせる指導、運動嫌いを生み出すメカニズム、運動嫌いをなくすための心理的介入などについての先行研究を概観（資料収集の仕方、まとめ方、報告書の書き方など）する。 ・質疑応答を受け、適切に回答する。	授業の内容を踏まえ、ノートにまとめておく和良好的。また、スポーツ心理学分野における最新の研究トピックと研究論文を検索し、熟読し、資料作成しておく。	4時間

第11回	スポーツキャリア	授業の内容を踏まえ、ノートにまとめておく和良好的。また、スポーツ心理学分野における最新の研究トピックと研究論文を検索し、熟読し、資料作成しておく。	4時間
<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツキャリアパターン、アスリートのキャリアトランジション問題、離脱やトランスファーなどの社会的問題などについての先行研究を概観（資料収集の仕方、まとめ方、報告書の書き方など）する。 ・質疑応答を受け、適切に回答する。 			
第12回	運動とこころの健康	授業の内容を踏まえ、ノートにまとめておく和良好的。また、スポーツ心理学分野における最新の研究トピックと研究論文を検索し、熟読し、資料作成しておく。	4時間
<ul style="list-style-type: none"> ・健康実践に向けた運動介入に関わる心理的問題、運動の心理的効果、バリアフリー社会に向けての心理学的介入などについての先行研究を概観（資料収集の仕方、まとめ方、報告書の書き方など）する。 ・質疑応答を受け、適切に回答する。 			
第13回	スポーツ領域における質的アプローチ	授業の内容を踏まえ、ノートにまとめておく和良好的。また、スポーツ心理学分野における最新の研究トピックと研究論文を検索し、熟読し、資料作成しておく。	4時間
<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツカウンセリング研究、スポーツシーンにおける臨床的理解などについての先行研究を概観（資料収集の仕方、まとめ方、報告書の書き方など）する。 ・質疑応答を受け、適切に回答する。 			
第14回	プレゼンテーション および まとめ	これまでの授業の内容を踏まえ、ノートにまとめておく和良好的。	4時間
<ul style="list-style-type: none"> ・本授業で学習したことをまとめ、発表する（個別）。 ・スポーツフィールドをより良く変えるための提案を行う。 ・最終課題の解説を行う。 ・本授業の成果を今後に生かすためにはどうすればいいのかについて考えをまとめる。 			

授業科目名	スポーツ心理演習				
担当教員名	豊田 則成				
学年・コース等	1	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業は、様々なスポーツフィールドに混在する様々な心理的問題を同定し、それに対する有効で有益な心理学的介入方略を検討するための能力を育成する。また、そのための基礎的研究能力の向上を目指す。

達成目標

メンタルトレーニングやスポーツカウンセリングなどの先駆的な取り組みについて最新の研究トピックや研究方法に触れ、スポーツフィールドに対する有効で有益な心理学的介入方略を実践する基礎的能力を養う。すなわち、スポーツフィールドにおける心理的問題を同定し、これを改善することのできる実践力の獲得を目指す。

養うべき力と到達目標

具体的内容：

1. DP1. スポーツに対する関心・意欲

この項目は使用しません。

目標：

この項目は使用しません。

学外連携学修

無し

授業方法

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

発表資料

： 毎回の授業で発表資料を作成し、これを評価する。
1) 選定した論文の内容を的確に発表資料に反映しているか、2) 小項目を立て、分かりやすい資料作成ができていないか。

50 %

プレゼンテーション

： 毎回の授業で資料を発表し、これを評価する。
1) 発表資料をわかりやすく発表できているか、2) 質疑応答に適切に対応できているか。

50 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

スポーツメンタルトレーニング (大修館書店) および 臨床スポーツ心理学 (道和書院)

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であることから、毎回、「授業外学修課題」として、メンタルトレーニングやスポーツカウンセリングなどの先駆的な取り組みについて最新の研究トピックや研究方法を熟知することを目指し、平均すると毎回4時間以上の授業外学修が求められる。従って、毎回の授業に備えて、予めメンタルトレーニングやスポーツカウンセリングなどの先駆的な国内外の最新の研究論文および文献などを熟読し、これについてのレジュメを作成し、発表する準備を行う。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 随時

場所： A407

備考・注意事項： アポイントをとりたい場合は、toyoda-n@bss.ac.jp宛てに送信すること。
特に、E-Mailの「件名」には「学籍番号」と「氏名」を記入し、「本文」の一行目には「本授業名」を、二行目以降には「問合せ事項」を簡潔に記入すること。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 オリエンテーション 本授業の目標とスケジュールの説明 ・段階的な学習目標の説明、参考図書や参考文献の紹介、グループ学習のグループ編成する。 ・スポーツメンタルトレーニングとスポーツカウンセリングの研究成果についてについて学修する。 ・本領域における研究動向や今後の授業展開について展望する。	予め関連図書等を熟読し、予習しておくが良い。	4時間
第2回 スポーツメンタルトレーニングの理論と指導法 ・標記に関連する先行研究や文献を熟読し、レジュメを作成し、発表する。 ・スポーツメンタルトレーニングの理論的基礎を理解する。 ・心理スキルトレーニングの計画的実施する。 ・心理的介入の成果の評価について学修する。	授業の内容を踏まえ、ノートにまとめておくが良い。また、スポーツメンタルトレーニングに関連する先行研究を選定し、予習しておくが良い。	4時間
・標記に関連する先行研究や文献を熟読し、レジュメを作成し、発表する。 ・スポーツメンタルトレーニングの理論的基礎を理解する。 ・心理スキルトレーニングの計画的実施する。 ・心理的介入の成果の評価について学修する。		
・標記に関連する先行研究や文献を熟読し、レジュメを作成し、発表する。 ・スポーツメンタルトレーニングの理論的基礎を理解する。 ・心理スキルトレーニングの計画的実施する。 ・心理的介入の成果の評価について学修する。		
・標記に関連する先行研究や文献を熟読し、レジュメを作成し、発表する。 ・スポーツメンタルトレーニングの理論的基礎を理解する。 ・心理スキルトレーニングの計画的実施する。 ・心理的介入の成果の評価について学修する。		
・標記に関連する先行研究や文献を熟読し、レジュメを作成し、発表する。 ・スポーツメンタルトレーニングの理論的基礎を理解する。 ・心理スキルトレーニングの計画的実施する。 ・心理的介入の成果の評価について学修する。		
・標記に関連する先行研究や文献を熟読し、レジュメを作成し、発表する。 ・スポーツメンタルトレーニングの理論的基礎を理解する。 ・心理スキルトレーニングの計画的実施する。 ・心理的介入の成果の評価について学修する。		
第8回 プレゼンテーション① ・標記に関連する先行研究や文献を熟読し、レジュメを作成し、発表する。 ・スポーツメンタルトレーニングの実践報告行う。 ・メンタルトレーニング効果の検証および議論について学修する。	授業の内容を踏まえ、ノートにまとめておくが良い。また、スポーツカウンセリングに関連する先行研究を選定し、予習しておくが良い。	4時間
第9回 スポーツカウンセリングの理論と介入事例 ・標記に関連する先行研究や文献を熟読し、レジュメを作成し、発表する。 ・スポーツカウンセリングの理論的基礎を理解する。 ・事例を提示し、討議する。 ・カウンセリング介入の成果の評価について学修する。	授業の内容を踏まえ、ノートにまとめておくが良い。また、スポーツカウンセリングに関連する先行研究を選定し、予習しておくが良い。	4時間
・標記に関連する先行研究や文献を熟読し、レジュメを作成し、発表する。 ・スポーツカウンセリングの理論的基礎を理解する。 ・事例を提示し、討議する。 ・カウンセリング介入の成果の評価について学修する。		
・標記に関連する先行研究や文献を熟読し、レジュメを作成し、発表する。 ・スポーツカウンセリングの理論的基礎を理解する。 ・事例を提示し、討議する。 ・カウンセリング介入の成果の評価について学修する。		
・標記に関連する先行研究や文献を熟読し、レジュメを作成し、発表する。 ・スポーツカウンセリングの理論的基礎を理解する。 ・事例を提示し、討議する。 ・カウンセリング介入の成果の評価について学修する。		
第14回 プレゼンテーション② および まとめ	授業の内容を踏まえ、ノートにまとめておくが良い。また、スポーツカウンセリングに関連する先行研究を選定し、予習しておくが良い。	4時間

- ・標記に関連する先行研究や文献を熟読し、レジメを作成し、発表する。
 - ・事例を提示し、討議する。
 - ・スポーツへのカウンセリングマインドの導入について理解する。
 - ・本授業のまとめを行い、最終課題の解説を行う。
 - ・本授業の成果を今後の研究活動に生かすためにはどうすればよいのか考える。
-

授業科目名	スポーツバイオメカニクス特論				
担当教員名	高橋 佳三				
学年・コース等	1	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本講義では、スポーツバイオメカニクスの基礎を学ぶ。スポーツバイオメカニクスの学習に必要な力学や数学の基礎を学び、その基礎を元に並進運動および回転運動のキネマティクスとキネティクス、仕事、エネルギー、パワーなどについて学習する。

【到達目標】

1. スポーツバイオメカニクスの学習に必要な力学と数学の基礎を理解する。
2. 並進運動のキネマティクス、キネティクスについて理解する。
3. 回転運動のキネマティクス、キネティクスについて理解する。
4. 仕事、エネルギー、パワーについて理解する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1. DP2. 知識・技能	スポーツバイオメカニクスに関する知識	スポーツにおける運動、ヒト、用具、施設の振る舞いをバイオメカニクスの視点から分析できる。
2. DP3. 思考・判断・表現	バイオメカニクスの原則に則った運動の実践または指導	授業内で学んだバイオメカニクスの原則を、実際のスポーツフィールドで実践または指導できる。

学外連携学修

無し

授業方法

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
授業への参加度	： 毎回の授業に対しての予習、復習、議論への参加度について評価する。
30 %	
内容の理解度	： ディスカッションの内容や単元ごとの小テストの成績から、それぞれの単元についての理解度を評価する。
70 %	

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
宮西智久、藤井範久、岡田英孝	・ 初めて学ぶ 健康・スポーツ科学シリーズ4 スポーツバイオメカニクス	・ 化学同人	・ 2016 年

参考文献等

The Biomechanics of Sports Techniques, 4th edition (James G. Hay, Prentice Hall)
 スポーツバイオメカニクス20講 (阿江通良、藤井範久)
 スポーツバイオメカニクス (深代千之、桜井伸二、平野裕一、阿江通良)

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	スポーツバイオメカニクス序説 バイオメカニクスとはどのような学問か、どのように派生してきたか、どのような目的をもつ学問か、概略を理解する。	教科書p.1-16を読み、バイオメカニクスの概略について復習する。合わせて、教科書p.18-26を読み、力学と数学の基礎について予習する。	4時間
第2回	力学と数学の基礎1：力学の基礎、ベクトル演算 力学の基礎と、ベクトル演算のうちの加算・減算について理解する。	力学と数学の基礎について復習する。合わせて、教科書p.27-40を読み、ベクトル演算と微分・積分について予習する。	4時間
第3回	力学と数学の基礎2：ベクトル演算と微分・積分 ベクトル演算のうち、ベクトルの積、三角関数、行列演算、微分と積分について理解する。	ベクトルの積、三角関数、行列演算、微分と積分について復習する。合わせて、教科書p.42-53を読み、並進運動の位置、速度、加速度について予習する。	4時間
第4回	並進運動のキネマティクス1：位置、速度、加速度 並進運動のキネマティクスのうち、位置、速度、加速度について理解する。	並進運動のキネマティクスのうち、位置、速度、加速度について復習する。合わせて、教科書p.54-61を読み、力、等速度・等加速度運動、放物運動などについて予習する。	4時間
第5回	並進運動のキネマティクス2：力、等速度・等加速度運動、放物運動 並進運動のキネマティクスのうち、力、等速度・等加速度運動、放物運動について理解する。	並進運動のキネマティクスのうち、力、等速度・等加速度運動、放物運動について復習する。合わせて、教科書p.64-73を読み、回転運動のうち角度、角速度、角加速度などについて予習する。	4時間
第6回	回転運動のキネマティクス1：角度、角速度、角加速度 回転運動のキネマティクスのうち、角度、角速度、角加速度について理解する。	回転運動のキネマティクスのうち、角度、角速度、角加速度について復習する。合わせて、教科書p.74-84を読み、回転運動のうちモーメント、角速度と速度、等速円運動・等角加速度運動などについて予習する。	4時間
第7回	回転運動のキネマティクス2：モーメント、角速度と速度、等速円運動・等角加速度運動 回転運動のキネマティクスのうち、モーメント、角速度と速度、等速円運動・等角加速度運動について理解する。	回転運動のキネマティクスのうち、モーメント、角速度と速度、等速円運動・等角加速度運動について復習する。合わせて、教科書p.86-100を読み、力、運動の三法則、いろいろな力などについて予習する。	4時間
第8回	並進運動のキネティクス1：力、運動の三法則、いろいろな力 並進運動のキネティクスのうち、力、運動の三法則、いろいろな力について理解する。	並進運動のキネティクスのうち、力、運動の三法則、いろいろな力について復習する。合わせて、教科書p.101-116を読み、運動量と力積、フリーボディダイアグラム、運動方程式などについて予習する。	4時間
第9回	並進運動のキネティクス2：運動量と力積、フリーボディダイアグラム、運動方程式 並進運動のキネティクスのうち、運動量と力積、フリーボディダイアグラム、運動方程式について理解する。	並進運動のキネティクスのうち、運動量と力積、フリーボディダイアグラム、運動方程式について復習する。合わせて、教科書p.118-133を読み、力のモーメント、釣り合い、てこの原理、重心などについて予習する。	4時間
第10回	回転運動のキネティクス1：力のモーメント、釣り合い、てこの原理、重心 回転運動のキネティクスのうち、力のモーメント、釣り合い、てこの原理、重心について理解する。	回転運動のキネティクスのうち、力のモーメント、釣り合い、てこの原理、重心について復習する。合わせて、教科書p.134-152を読み、回転運動における慣性量、運動の三法則などについて予習する。	4時間
第11回	回転運動のキネティクス2：慣性量、運動の三法則 回転運動のキネティクスのうち、慣性量、運動の三法則について理解する。	回転運動における慣性量、運動の三法則について復習する。合わせて、教科書p.154-168を読み、仕事、力学的エネルギーなどについて予習する。	4時間
第12回	仕事、エネルギー、パワー1：仕事、力学的エネルギー 仕事、力学的エネルギーについて理解する。	仕事、力学的エネルギーについて復習する。合わせて、教科書p.169-178を読み、パワー、仕事・力学的エネルギー・パワーの関係、エネルギーの変換などについて予習する。	4時間
第13回	仕事、エネルギー、パワー2：パワー、仕事・力学的エネルギー・パワーの関係、エネルギーの変換 パワー、仕事・力学的エネルギー・パワーの関係、エネルギーの変換について理解する。	パワー、仕事・力学的エネルギー・パワーの関係、エネルギーの変換について復習する。合わせて、教科書p.180-188を読み、流体力について予習する。	4時間
第14回	流体力	流体力について復習する。合わせて、教科書p.190-209を読み、筋収縮の力学について予習する。	4時間

流体力について理解する。

授業科目名	スポーツバイオメカニクス演習				
担当教員名	高橋 佳三				
学年・コース等	1	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

スポーツバイオメカニクスの研究に欠かせないのは、様々な分析を可能にする研究機材である。高速度VTRカメラ、筋電図計、地面反力計などを用いたデータの収集方法について講義を行い、さらに得られたデータを分析するためのプログラミングの方法を習得する。

【到達目標】

一人で実験からデータ分析までを行うための素養を身につける。また、最新の知見を得るために国内・海外の論文を読む論文読解力を身につけ、情報の収集から発信まで、研究者として必要とされる素養を養う。

養うべき力と到達目標

具体的内容：

1. DP2. 知識・技能
2. DP1. スポーツに対する関心・意欲

スポーツバイオメカニクスに関する実験手法
実験計画、実験、データ分析

目標：

スポーツバイオメカニクスの分析に不可欠な実験機材の取り扱いができる。
実験計画を立て、実験を行い、データ分析ができる。

学外連携学修

無し

授業方法

- ・実験、実技、実習
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合

授業への参加度

40 %

理解度

60 %

評価の基準

： 実験やデータ分析などへの参加度を評価する。

： 研究計画書、実験内容、データなどを総合的に評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

初めて学ぶ 健康・スポーツ科学シリーズ4 スポーツバイオメカニクス (宮西智久 編、藤井範久 著、岡田英孝 著、化学同人、2016)

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

授業計画

学修課題

授業外学修課題に
かかる目安の時間

第1回	バイオメカニクス的研究の手順 バイオメカニクス的研究に使用される機材や研究方法などについて概説する。	次週の映像撮影に向け、必要機材の準備を行う。また実験試技を考え、それに関する研究論文を検索し、まとめておく。	4時間
第2回	実験方法 (1) 2次元画像撮影、地面反力の計測 2次元画像分析のための映像撮影法を習得する（パンニング撮影含む）。 地面反力の計測方法を習得する。	撮影した映像をデジタルの作業が行えるように変換しておく。次週の3次元撮影で撮影する実験試技を考え、その撮影法を計画しておく。	4時間
第3回	実験方法 (2) 3次元画像撮影、筋電図の計測 3次元画像分析のための映像撮影法を習得する。 筋電図の計測方法を習得する。	撮影した映像をデジタルの作業が行えるように変換しておく。	4時間
第4回	データ分析 (1) デジタイズ 2次元および3次元のデジタイズの方法を習得する。	次週までに2次元画像のデジタイズを終えておく。	4時間
第5回	データ分析 (2) 2次元実長換算 2次元実長換算の方法を習得し、プログラム内容を確認する。	実長換算の計算方法を復習する。翌週までに3次元のデジタイズを終えておく。	4時間
第6回	データ分析 (3) DLT法 DLT法の方法を習得し、プログラム内容を確認する。	DLTの計算方法について復習する。翌週の平滑化に備え、参考書などを読む。	4時間
第7回	データ分析 (4) 平滑化 平滑化の方法を習得し、プログラム内容を確認する。	平滑化の内容について復習する。翌週までに全てのデータの平滑化を終えておく。高校数学やバイオメカニクスの参考書を読み、微分法について予習しておく。	4時間
第8回	データ分析 (5) 速度算出 速度算出の方法を習得し、プログラム内容を確認する。	全てのデータの速度を算出する。高校数学やバイオメカニクスの参考書を読み、三角関数について予習しておく。	4時間
第9回	データ分析 (6) 角度・角速度算出 角度算出の方法を習得し、プログラム内容を確認する。特に2次元と3次元の角度の違いについて認識する。	角度の算出方法について復習する。地面反力を計測した論文を検索し、内容をまとめておく。	4時間
第10回	データ分析 (7) 地面反力の処理 地面反力データの処理方法を習得し、プログラム内容を確認する。	地面反力について復習する。筋電図を計測した論文を検索し、内容をまとめておく。	4時間
第11回	データ分析 (8) 筋電図の処理 筋電図データの処理方法を習得し、プログラム内容を確認する。	筋電図の内容について復習する。これまで算出したデータをまとめ、項目毎にまとめておく。	4時間
第12回	考察 (1) 統計処理 算出したデータをまとめ、比較し、統計処理などを行う。特にt検定、分散分析、相関係数などの基礎統計量について理解する。	様々な観点から算出したデータを並べ替えて考察しておく。	4時間
第13回	考察 (2) 考察の進め方 統計処理を行った結果から、考察を行い、論文のフォーマットに準じて文章かできるようにする。	考察を論文のフォーマットに準じて文章化する。	4時間
第14回	プレゼンテーション プレゼンテーションのための資料作成法や注意点等を習得する。 プレゼンテーションを行い、受講生同士でディスカッションを行う。	PowerPointを用いてプレゼンテーションを作成し、翌週の発表の準備をする。発表とディスカッションの内容から論文を修正し、提出する。	4時間